

札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領改定案 新旧対照表

旧（現行）	新（改定案）	備考（改定事項等）
<p data-bbox="331 635 779 657">札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領</p> <p data-bbox="405 1070 705 1093">札幌市アスベスト問題対策会議</p> <p data-bbox="488 1214 622 1236">平成 29 年 3 月</p> <p data-bbox="421 1262 689 1284">（最終改正 平成 31 年 3 月）</p>	<p data-bbox="1111 635 1559 657">札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領</p> <p data-bbox="1184 1070 1485 1093">札幌市アスベスト問題対策会議</p> <p data-bbox="1267 1214 1402 1236">平成 29 年 3 月</p> <p data-bbox="1216 1262 1462 1284">（最終改正 令和 2 年 月）</p>	<p data-bbox="1749 1259 1906 1281">・最終改正月を修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: center;">目次</p> <p>1 これまでの経緯・要領制定の目的・・・・・・・・・・ 1</p> <p>2 定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p>(1) 石綿及びアスベストについて</p> <p>(2) 点検対象となる石綿含有建材</p> <p>ア 吹付け石綿等（レベル1）</p> <p>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材及び断熱材（レベル2）</p> <p>（ア） 保温材</p> <p>（イ） 耐火被覆材</p> <p>（ウ） 断熱材</p> <p>ウ 煙突用石綿含有ライナー材（レベル3）</p> <p>(3) 点検対象となる施設</p> <p>ア 吹付け石綿等</p> <p>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材、断熱材及び煙突用石綿含有ライナー材</p> <p>(4) 点検対象施設内における石綿含有該当箇所の使用頻度</p> <p>ア 吹付け石綿等、石綿含有保温材、耐火被覆材及び屋根用折板断熱材</p> <p>（ア） 使用頻度が高い</p> <p>（イ） 使用頻度が低い</p> <p>（ウ） 不使用</p> <p>イ 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>（ア） 使用頻度が高い</p> <p>（イ） 使用頻度が低い</p> <p>（ウ） 不使用</p> <p>(5) 専門家</p> <p>(6) 工法</p> <p>ア 除去工法</p> <p>イ 囲い込み工法</p> <p>ウ 封じ込め工法</p> <p>(7) 繊維数濃度</p> <p>ア 総繊維数濃度</p> <p>イ 石綿繊維数濃度</p> <p>(8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳</p> <p>3 点検方法等フロー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4</p> <p>4 点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p> <p>イ 調査手順</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>（ア） 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <p>（イ） 囲い込み</p>	<p style="text-align: center;">目次</p> <p>1 これまでの経緯・要領制定の目的・・・・・・・・・・ 1</p> <p>2 定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p>(1) 石綿及びアスベストについて</p> <p>(2) 点検対象となる石綿含有建材</p> <p>ア 吹付け石綿等（レベル1）</p> <p>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材及び断熱材（レベル2）</p> <p>（ア） 保温材</p> <p>（イ） 耐火被覆材</p> <p>（ウ） 断熱材</p> <p>ウ 煙突用石綿含有ライナー材（レベル3）</p> <p>(3) 点検対象となる施設</p> <p>ア 吹付け石綿等</p> <p>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材、断熱材及び煙突用石綿含有ライナー材</p> <p>(4) 点検対象施設内における石綿含有該当箇所の使用頻度</p> <p>ア 吹付け石綿等、石綿含有保温材、耐火被覆材及び屋根用折板断熱材</p> <p>（ア） 使用頻度が高い</p> <p>（イ） 使用頻度が低い</p> <p>（ウ） 不使用</p> <p>イ 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>（ア） 使用頻度が高い</p> <p>（イ） 使用頻度が低い</p> <p>（ウ） 不使用</p> <p>(5) 専門家</p> <p>(6) 工法</p> <p>ア 除去工法</p> <p>イ 囲い込み工法</p> <p>ウ 封じ込め工法</p> <p>(7) 繊維数濃度</p> <p>ア 総繊維数濃度</p> <p>イ 石綿繊維数濃度</p> <p>(8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳</p> <p>3 点検方法等フロー・・・・・・・・・・・・・・・・ 4</p> <p>4 点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p> <p>イ 調査手順</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>（ア） 未措置（露出）</p> <p>（イ） 措置済み</p>	<p>・措置分類の文言整理</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(ウ) 封じ込め</p> <p>(2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p> <p>イ 調査手順</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>(ア) 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <p>(イ) 囲い込み</p> <p>(ウ) 封じ込め</p> <p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p> <p>イ 調査手順</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>(ア) 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <p>(イ) 囲い込み</p> <p>(ウ) 封じ込め</p>	<p><u>a 囲い込み</u></p> <p><u>b 封じ込め</u></p> <p>(2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p> <p>イ 調査手順</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>(ア) 未措置（<u>露出</u>）</p> <p>(イ) <u>措置済み</u></p> <p><u>a 囲い込み</u></p> <p><u>b 封じ込め</u></p> <p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p> <p>イ 調査手順</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>(ア) 未措置（<u>露出</u>）</p> <p>(イ) <u>措置済み</u></p> <p><u>a 囲い込み</u></p> <p><u>b 封じ込め</u></p>	<p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p>
<p>5 改修等の措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>ア 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <p>イ 囲い込み</p> <p>ウ 封じ込め</p> <p>(2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <p>イ 囲い込み</p> <p>ウ 封じ込め</p> <p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <p>(ア) 著しい損傷</p> <p>(イ) 著しい劣化</p> <p> a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合</p> <p> b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合</p> <p>(ウ) 劣化</p> <p> a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合</p> <p> b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合</p> <p>(エ) 一部劣化</p> <p>(オ) 通常</p> <p>イ 囲い込み</p> <p>ウ 封じ込め</p>	<p>5 改修等の措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>ア 未措置（<u>露出</u>）</p> <p>イ <u>措置済み</u></p> <p><u>(ア) 囲い込み</u></p> <p><u>(イ) 封じ込め</u></p> <p>(2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 未措置（<u>露出</u>）</p> <p>イ <u>措置済み</u></p> <p><u>(ア) 囲い込み</u></p> <p><u>(イ) 封じ込め</u></p> <p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 未措置（<u>露出</u>）</p> <p>(ア) 著しい損傷</p> <p>(イ) 著しい劣化</p> <p> a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合</p> <p> b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合</p> <p>(ウ) 劣化</p> <p> a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合</p> <p> b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合</p> <p>(エ) 一部劣化</p> <p>(オ) 通常</p> <p>イ <u>措置済み</u></p>	<p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>6 点検結果の記録、保存及び報告・・・・・・・・・・ 11</p> <p>(1) 記録</p> <p>(2) 保存</p> <p>(3) 報告</p> <p>7 結果のとりまとめ・・・・・・・・・・ 12</p> <p>8 備考等・・・・・・・・・・ 12</p> <p>(1) 省令等による点検について</p> <p>(2) 本要領の見直しについて</p> <p>9 参考資料・・・・・・・・・・ 12</p> <p>10 問い合わせ先・・・・・・・・・・ 12</p> <p>(1) 本要領や調査内容、大気中のアスベスト濃度測定等に関すること</p> <p>(2) 石綿含有建材、石綿除去工事に関すること</p> <p>(3) 点検実施者の安全確保、石綿障害予防規則による届出等に関すること</p> <p>11 添付資料・・・・・・・・・・ 13</p> <p>(1) 別添1) 各石綿含有建材における点検フロー</p> <p>ア 1-1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材点検フロー</p> <p>イ 1-2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材点検フロー</p> <p>ウ 1-3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）点検フロー</p> <p>エ 1-4) 囲い込み・封じ込めの石綿含有建材点検フロー</p> <p>(2) 別添2) 点検頻度及び点検実施者</p> <p>(3) 別添3) 損傷、劣化状態の確認方法等について</p> <p>(4) 別添4) 石綿含有確認のための定性分析について</p> <p>(5) 別添5) 石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について</p> <p>(6) 別添6) 調査表・記載例</p> <p>ア 6-1) 調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>イ 6-2) 調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p><u>ウ</u> 6-3) 記載例－調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p><u>エ</u> 6-4) 記載例－調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p><u>オ</u> 6-5) 施設分類</p> <p><u>カ</u> 6-6) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（吹付け石綿等）</p> <p><u>キ</u> 6-7) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（石綿含有保温材等）</p> <p><u>ク</u> 6-8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む））</p>	<p><u>(7) 囲い込み</u></p> <p><u>(4) 封じ込め</u></p> <p>6 点検結果の記録、保存及び報告・・・・・・・・・・ 11</p> <p>(1) 記録</p> <p>(2) 保存</p> <p>(3) 報告</p> <p>7 結果のとりまとめ・・・・・・・・・・ 12</p> <p>8 備考等・・・・・・・・・・ 12</p> <p>(1) 省令等による点検について</p> <p>(2) 本要領の見直しについて</p> <p>9 参考資料・・・・・・・・・・ 12</p> <p>10 問い合わせ先・・・・・・・・・・ 12</p> <p>(1) 要領や調査内容、<u>大気・室内環境</u>濃度測定等に関すること</p> <p>(2) 石綿含有建材、石綿除去工事に関すること</p> <p>(3) 点検実施者の安全確保、石綿障害予防規則による届出等に関すること</p> <p>11 添付資料・・・・・・・・・・ 13</p> <p>(1) 別添1) 各石綿含有建材における点検フロー</p> <p>ア 1-1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材点検フロー</p> <p>イ 1-2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材点検フロー</p> <p>ウ 1-3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）点検フロー</p> <p>エ 1-4) 囲い込み・封じ込めの石綿含有建材点検フロー</p> <p>(2) 別添2) 点検頻度及び点検実施者</p> <p>(3) 別添3) 損傷、劣化状態の確認方法等について</p> <p>(4) 別添4) 石綿含有確認のための定性分析について</p> <p>(5) 別添5) 石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について</p> <p>(6) 別添6) 調査表・記載例</p> <p>ア 6-1) 調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>イ 6-2) 調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p><u>ウ</u> 6-3) 調査表《<u>施設分類</u>》</p> <p><u>エ</u> 6-4) 記載例－調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p><u>オ</u> 6-5) 記載例－調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p><u>カ</u> 6-6) <u>記載例－調査表《施設分類》</u></p> <p><u>キ</u> 6-7) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（吹付け石綿等）</p> <p><u>ク</u> 6-8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（石綿含有保温材等）</p> <p><u>ケ</u> 6-9) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む））</p>	<p>・措置の分類の整理</p> <p>・文言修正</p> <p>・記載順変更、文言修正</p> <p>・記載順変更、記載例追加に伴う修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(7) 別添7) アスベストの使用状況及び除去等情報記入上の注意</p> <p>ア 7-1) 吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>イ 7-2) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ウ 7-3) 施設分類</p> <p>エ 7-4) 管理台帳登録件数-吹付け石綿等</p> <p>オ 7-5) 管理台帳登録件数-石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材</p> <p>カ 7-6) 管理台帳登録件数-煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>(8) 別添8) 参考資料</p>	<p>(7) 別添7) 調査表記入上の注意</p> <p>ア 7-1) 吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>イ 7-2) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ウ 7-3) 施設分類</p> <p>エ 7-4) 管理台帳登録件数-吹付け石綿等</p> <p>オ 7-5) 管理台帳登録件数-石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材</p> <p>カ 7-6) 管理台帳登録件数-煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>(8) 別添8) 参考資料</p>	<p>・文言修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>1 これまでの経緯・要領制定の目的</p> <p>平成17年に、特定化学物質障害予防規則（昭和47年9月30日労働省令第39号）（以下「特化則」という。）から石綿に係る部分のみ独立する形で、石綿障害予防規則（平成17年2月24日厚生労働省令第21号）が制定された。これにより、事業者は、その労働者を就業させる建築物に吹付けられた石綿等が損傷、劣化等によりその粉じんを発散させ、及び労働者がその粉じんにばく露するおそれがあるときは、除去等の措置を行うことが義務付けられた。また、特化則から定められていた建築物の解体時の事前調査等を引き続き実施するとともに、設計図書で判断できない場合の分析による調査や、作業計画の作成等が新たに義務付けられた。</p> <p>また、平成17年6月に大きな社会問題となったクボタショックを契機として、平成18年に大気汚染防止法及び建築基準法が改正され、吹付け石綿等に対する解体時の飛散防止措置や増改築時の除去を義務付けるなど、必要な対策がなされてきた。このような法令改正等に伴い、本市では、部局間でアスベスト問題に係る情報の交換を行い、その対策を総合的に推進するため、平成17年度に「札幌市アスベスト問題対策連絡会議」を設置し、さらに平成18年度には、施設毎に石綿の状況及び点検実績等を記録する「札幌市市有施設アスベスト管理台帳」を作成し、アスベスト対策の推進を図ってきているところである。</p> <p>その後、平成26年の石綿障害予防規則の改正（平成26年6月1日厚生労働省令第50号）により、事業者は、吹付け石綿等だけではなく、その労働者を就業させる建築物に張り付けられた保温材や耐火被覆材、断熱材で石綿を含有しているもの（以下「石綿含有保温材等」という。）が損傷や劣化により石綿等の粉じんを発散させ、及び労働者がその粉じんにばく露するおそれがあるときは、除去、封じ込め、囲い込み等の措置を講じることとされた。</p> <p>これを受けて、文部科学省から関係機関に対して「学校施設等における石綿含有保温材等の使用状況調査（特定調査）について」（平成26年7月14日付け26文科施第197号文部科学省大臣官房文教施設企画部長通知）の調査依頼があった。また、平成28年5月13日付け総務省行政評価局からの「アスベスト対策に関する行政評価・監視－飛散・ばく露防止対策を中心として－〈結果に基づく勧告〉」においては、石綿による健康被害を防止する観点から、建築物の解体時等や災害時における石綿の飛散・ばく露防止対策の実施状況等を調査し、その結果を取りまとめ、必要な改善措置を行うよう総務省、厚生労働省、国土交通省及び環境省に勧告があった。</p> <p>一方、本市では平成28年度に、区民センター等複数の市有施設において、煙突点検口から石綿含有断熱材等の落下物を確認したため、同様の事例確認及びアスベスト飛散防止を目的に、全庁的に全市有施設における煙突の緊急点検を実施した。その結果石綿含有断熱材等の落下物が確認された施設については、施設周囲への石綿飛散のおそれからボイラーを停止するとともに、当該年度中に煙突内石綿断熱材の除去、囲い込みや封じ込め等の措置を検討するなど、緊急で改修を行うこととなった。ボイラー停止中の期間は、一時的に一部の学校で温かい給食の提供ができず、また一部の施設では暖房が利用できなくなるなど、市民に対して大きな影響を及ぼした。</p>	<p>1 これまでの経緯・要領制定の目的</p> <p>平成17年に、特定化学物質障害予防規則（昭和47年9月30日労働省令第39号）（以下「特化則」という。）から石綿に係る部分のみ独立する形で、石綿障害予防規則（平成17年2月24日厚生労働省令第21号）が制定された。これにより、事業者は、その労働者を就業させる建築物に吹付けられた石綿等が損傷、劣化等によりその粉じんを発散させ、及び労働者がその粉じんにばく露するおそれがあるときは、除去等の措置を行うことが義務付けられた。また、特化則から定められていた建築物の解体時の事前調査等を引き続き実施するとともに、設計図書で判断できない場合の分析による調査や、作業計画の作成等が新たに義務付けられた。</p> <p>また、平成17年6月に大きな社会問題となったクボタショックを契機として、平成18年に大気汚染防止法及び建築基準法が改正され、吹付け石綿等に対する解体時の飛散防止措置や増改築時の除去を義務付けるなど、必要な対策がなされてきた。このような法令改正等に伴い、本市では、部局間でアスベスト問題に係る情報の交換を行い、その対策を総合的に推進するため、平成17年度に「札幌市アスベスト問題対策連絡会議」を設置し、さらに平成18年度には、施設毎に石綿の使用状況及び点検実績等を記録する「札幌市市有施設アスベスト管理台帳」を作成し、アスベスト対策の推進を図ってきているところである。</p> <p>その後、平成26年の石綿障害予防規則の改正（平成26年6月1日厚生労働省令第50号）により、事業者は、吹付け石綿等だけではなく、その労働者を就業させる建築物に張り付けられた保温材や耐火被覆材、断熱材で石綿を含有しているもの（以下「石綿含有保温材等」という。）が損傷や劣化により石綿等の粉じんを発散させ、及び労働者がその粉じんにばく露するおそれがあるときは、除去、封じ込め、囲い込み等の措置を講じることとされた。</p> <p>これを受けて、文部科学省から関係機関に対して「学校施設等における石綿含有保温材等の使用状況調査（特定調査）について」（平成26年7月14日付け26文科施第197号文部科学省大臣官房文教施設企画部長通知）の調査依頼があった。また、平成28年5月13日付け総務省行政評価局からの「アスベスト対策に関する行政評価・監視－飛散・ばく露防止対策を中心として－〈結果に基づく勧告〉」においては、石綿による健康被害を防止する観点から、建築物の解体時等や災害時における石綿の飛散・ばく露防止対策の実施状況等を調査し、その結果を取りまとめ、必要な改善措置を行うよう総務省、厚生労働省、国土交通省及び環境省に勧告があった。</p> <p>一方、本市では平成28年度に、区民センター等複数の市有施設において、煙突点検口から石綿含有断熱材等の落下物を確認したため、同様の事例確認及びアスベスト飛散防止を目的に、全庁的に全市有施設における煙突の緊急点検を実施した。その結果石綿含有断熱材等の落下物が確認された施設については、施設周囲への石綿飛散のおそれからボイラーを停止するとともに、当該年度中に煙突内石綿断熱材等の除去、囲い込みや封じ込め等の措置を検討するなど、緊急で改修を行うこととなった。ボイラー停止中の期間は、一時的に一部の学校で温かい給食の提供ができず、また一部の施設では暖房が利用できなくなるなど、市民に対して大きな影響を及ぼした。</p>	<p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>このような事態の未然防止に向けて、<u>このたび</u>、本市では「札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領」（以下「要領」という。）を<u>新たに</u>作成し、全市有施設において吹付け石綿等だけではなく石綿含有保温材等についても、損傷、劣化状態に応じた改修等も含めて適切に維持管理するための、点検ルール等を定めた。</p> <p>石綿は非常に危険なものであることから、維持管理を適正に行わずに、大気中に飛散させてしまった場合は、健康への大きな影響が懸念される。市民の安全を確保し、安心して生活できるよう、各施設の管理者は<u>本要領</u>に従い、石綿含有建材を適正に維持管理するよう努めなければならない。</p>	<p>このような事態の未然防止に向けて、本市では<u>平成29年3月に</u>「札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領」（以下「要領」という。）を作成し、全市有施設において吹付け石綿等だけではなく石綿含有保温材等についても、損傷、劣化状態に応じた改修等も含めて適切に維持管理するための、点検ルール等を定めた。</p> <p>石綿は非常に危険なものであることから、維持管理を適正に行わずに、大気中に飛散させてしまった場合は、健康への大きな影響が懸念される。市民の安全を確保し、安心して生活できるよう、各施設の管理者は<u>要領</u>に従い、石綿含有建材を適正に維持管理するよう努めなければならない。</p>	<p>・時点による文言修正</p> <p>・文言修正</p>
<p>2 定義</p>	<p>2 定義</p>	
<p>(1) 石綿及びアスベストについて</p> <p><u>本要領</u>では「石綿」と「アスベスト」を同じ意味で用いる。</p> <p>単独で使用する場合は「石綿」とし、「アスベスト実態調査」や「アスベスト対策」など、これまでに慣用的に使用されている語句は「石綿」に統一することはせず、接頭辞等で「アスベスト」を使用する。</p>	<p>(1) 石綿及びアスベストについて</p> <p>要領では「石綿」と「アスベスト」を同じ意味で用いる。</p> <p>単独で使用する場合は「石綿」とし、「アスベスト実態調査」や「アスベスト対策」など、これまでに慣用的に使用されている語句は「石綿」に統一することはせず、接頭辞等で「アスベスト」を使用する。</p>	
<p>(2) 点検対象となる石綿含有建材</p> <p><u>本要領</u>における点検対象となる石綿含有建材については、<u>札幌市市有施設アスベスト管理台帳及び「アスベストの使用状況及び除去状況に関する調査について」（平成28年9月27日付け総行政第185号総務省地域力創造グループ地域政策課長通知）に基づいたア</u>及びイに加えて、ウも対象とする。<u>なお、ウを除く石綿スレートやビニールタイル等のアスベスト成形板等（レベル3）については本要領の対象外とする。</u></p>	<p>(2) 点検対象となる石綿含有建材</p> <p>要領における点検対象となる石綿含有建材については、<u>総務省が実施するアスベストの使用状況及び除去状況に関する調査において対象となっている建材である次のア及びイに加えて、ウも対象とする。</u></p> <p>ウを除く石綿スレートやビニールタイル等のアスベスト成形板等（レベル3）及び石綿含有仕上塗材のうち外壁仕上塗材については要領の対象外とする。<u>（内壁仕上塗材については、令和2年度に取扱いを決定する予定であり、それまでの間は要領の対象外する。）。</u></p> <p><u>なお、要領の対象外としている建材についても、管理者の判断により、必要に応じて定期的な点検を行うことを妨げるものではない。</u></p>	<p>・文言修正</p> <p>・仕上塗材の取扱いを追記</p>
<p><u>ア 吹付け石綿等（レベル1）</u></p> <p>吹付け石綿、石綿含有吹付けロックウール（乾式・湿式）、石綿含有吹付けパーミキュライト及び石綿含有吹付けパーライト。ただし、石綿含有仕上塗材は除く。</p> <p><u>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材及び断熱材（レベル2）</u></p> <p>(ア) 保温材</p> <p>石綿保温材、石綿含有けいそう土保温材、石綿含有けい酸カルシウム保温材、石綿含有パーミキュライト保温材及び石綿含有パーライト保温材</p> <p>(イ) 耐火被覆材</p> <p>石綿含有耐火被覆板及び石綿含有けい酸カルシウム板第二種</p> <p>(ウ) 断熱材</p> <p>煙突用石綿断熱材及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p><u>ウ 煙突用石綿含有ライナー材（レベル3）</u></p>	<p><u>ア 吹付け石綿等（レベル1）</u></p> <p>吹付け石綿、石綿含有吹付けロックウール（乾式・湿式）、石綿含有吹付けパーミキュライト及び石綿含有吹付けパーライト。ただし、石綿含有仕上塗材は除く。</p> <p><u>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材及び断熱材（レベル2）</u></p> <p>(ア) 保温材</p> <p>石綿保温材、石綿含有けいそう土保温材、石綿含有けい酸カルシウム保温材、石綿含有パーミキュライト保温材及び石綿含有パーライト保温材</p> <p>(イ) 耐火被覆材</p> <p>石綿含有耐火被覆板及び石綿含有けい酸カルシウム板第二種</p> <p>(ウ) 断熱材</p> <p>煙突用石綿断熱材及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p><u>ウ 煙突用石綿含有ライナー材（レベル3）</u></p>	

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(3) 点検対象となる施設</p> <p>次のア及びイに該当する市有施設全てを対象とする。なお、該当となる石綿含有建材を除去するまでは点検を行うこととする。</p> <p>ア 吹付け石綿等 平成8年度以前に竣工し、0.1重量%を超える石綿を含有する吹付け材を使用している施設</p> <p>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材、断熱材及び煙突用石綿含有ライナー材 平成8年度以前に竣工し、0.1重量%を超える石綿を含有する保温材、断熱材及び煙突用石綿含有ライナー材を使用している施設並びに平成17年度頃までに完成し、0.1重量%を超える石綿を含有する耐火被覆材を使用している施設</p> <p>(4) 点検対象施設内における石綿含有該当箇所の使用頻度</p> <p>ア 吹付け石綿等、石綿含有保温材、耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材 吹付け石綿等、石綿を含有する保温材、耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材がある施設内における該当箇所の使用頻度の定義については、次の(ア)、(イ)及び(ウ)のとおりとする。</p> <p>(ア) 使用頻度が高い 事務室、教室、図書室、会議室、廊下、給湯室等、人の出入りが多く常時使用するところをいう。</p> <p>(イ) 使用頻度が低い 倉庫、機械室、電気室、変電室、非常階段等をいう。ただし、常駐者がいる場合は、「使用頻度が高い」に含まれることとする。</p> <p>(ウ) 不使用 通常は誰も立入らない、又は使用していないところをいう。</p> <p>イ 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む） 煙突用石綿断熱材がある煙突の使用頻度の定義については、次の(ア)、(イ)及び(ウ)のとおりとする。</p> <p>(ア) 使用頻度が高い 1年のうち、使用している期間が6か月以上である煙突をいう。</p> <p>(イ) 使用頻度が低い 1年のうち、使用している期間が6か月未満である煙突をいう。</p> <p>(ウ) 不使用 使用していない煙突をいう。</p> <p>(5) 専門家</p> <p>次に示す①～②の資格のうちいずれかに該当する、石綿に関し一定の知見を有し、的確な判断ができる者をいう。</p> <p>① 「建築物石綿含有建材調査者講習登録規程」（平成30年10月23日告示）により厚生労働省に登録された機関が行う講習を修了した特定建築物石綿含有建材調査者及び建築物石綿含有建材調査者</p> <p>② 日本アスベスト調査診断協会に登録された者</p>	<p>(3) 点検対象となる施設</p> <p>次のア及びイに該当する市有施設全てを対象とする。なお、点検対象となる石綿含有建材を除去するまでの間は、点検を行うこととする。</p> <p>ア 吹付け石綿等 平成8年度以前に竣工し、0.1重量%を超える石綿を含有する吹付け材を使用している施設</p> <p>イ 石綿を含有する保温材、耐火被覆材、断熱材及び煙突用石綿含有ライナー材 平成8年度以前に竣工し、0.1重量%を超える石綿を含有する保温材、断熱材及び煙突用石綿含有ライナー材を使用している施設並びに平成17年度頃までに完成し、0.1重量%を超える石綿を含有する耐火被覆材を使用している施設</p> <p>(4) 施設の使用頻度</p> <p>ア 吹付け石綿等、石綿含有保温材、耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材 吹付け石綿等、石綿を含有する保温材、耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材がある施設の使用頻度の定義については、次の(ア)、(イ)及び(ウ)のとおりとする。</p> <p>(ア) 使用頻度が高い 事務室、教室、図書室、会議室、廊下、給湯室等、人の出入りが多く常時使用するところをいう。</p> <p>(イ) 使用頻度が低い 倉庫、機械室、電気室、変電室、非常階段等をいう。ただし、常駐者がいる場合は、「使用頻度が高い」に含まれることとする。</p> <p>(ウ) 不使用 通常は誰も立入らない、又は使用していないところをいう。</p> <p>イ 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む） 煙突用石綿断熱材がある煙突の使用頻度の定義については、次の(ア)、(イ)及び(ウ)のとおりとする。</p> <p>(ア) 使用頻度が高い 1年のうち、使用している期間が6か月以上である煙突をいう。</p> <p>(イ) 使用頻度が低い 1年のうち、使用している期間が6か月未満である煙突をいう。</p> <p>(ウ) 不使用 使用していない煙突をいう。</p> <p>(5) 専門家</p> <p>次に示す①～②の資格のうちいずれかに該当する、石綿に関し一定の知見を有し、的確な判断ができる者をいう。</p> <p>① 「建築物石綿含有建材調査者講習登録規程」（平成30年10月23日告示）により厚生労働省に登録された機関が行う講習を修了した特定建築物石綿含有建材調査者及び建築物石綿含有建材調査者</p> <p>② 日本アスベスト調査診断協会に登録された者</p>	<p>・文修修正</p> <p>・文修修正</p> <p>・文修修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(6) 工法</p> <p><u>ア 除去工法</u> 既存の石綿含有建材を下地から取り除く工法のことをいう。</p> <p><u>イ 囲い込み工法</u> 既存の石綿含有建材はそのまま残し、これらが使用空間に露出しないよう、板状材料等で完全に覆うことによって密閉し、粉じんの飛散防止、損傷防止等を図る工法のことをいう。</p> <p><u>ウ 封じ込め工法</u> 既存の石綿含有建材をそのまま残し、石綿含有建材への薬液の含浸又は造膜材の散布等を施すことにより、石綿含有建材の表層部又は全層を完全に被覆又は固着・固定化して粉じんが使用空間内へ飛散しないようにする工法のことをいう。</p> <p>(7) 繊維数濃度</p> <p>大気中又は室内環境における石綿繊維数等濃度の定義については、次のア及びイのとおりとする。</p> <p><u>ア 総繊維数濃度</u> 「アスベストモニタリングマニュアル」（第4.1版）（平成29年7月環境省水・大気環境局大気環境課）に記載された位相差顕微鏡法により測定された総繊維数濃度のことをいう。</p> <p><u>イ 石綿繊維数濃度</u> 「アスベストモニタリングマニュアル」（第4.1版）（平成29年7月環境省水・大気環境局大気環境課）に記載された電子顕微鏡法又は環境管理担当部長が適当と認める方法により測定された石綿繊維数濃度のことをいう。</p>	<p>(6) 工法</p> <p><u>ア 除去工法</u> 既存の石綿含有建材を下地から取り除く工法のことをいう。</p> <p><u>イ 囲い込み工法</u> 既存の石綿含有建材はそのまま残し、これらが使用空間に露出しないよう、板状材料等で完全に覆うことによって密閉し、粉じんの飛散防止、損傷防止等を図る工法のことをいう。</p> <p><u>ウ 封じ込め工法</u> 既存の石綿含有建材をそのまま残し、石綿含有建材への薬液の含浸又は造膜材の散布等を施すことにより、石綿含有建材の表層部又は全層を完全に被覆又は固着・固定化して粉じんが使用空間内へ飛散しないようにする工法のことをいう。</p> <p>(7) 繊維数濃度</p> <p>大気中又は室内環境における繊維数濃度の定義については、次のア及びイのとおりとする。</p> <p><u>ア 総繊維数濃度</u> 「アスベストモニタリングマニュアル」（第4.1版）（平成29年7月環境省水・大気環境局大気環境課）に記載された位相差顕微鏡法により測定された総繊維数濃度のことをいう。</p> <p><u>イ 石綿繊維数濃度</u> 「アスベストモニタリングマニュアル」（第4.1版）（平成29年7月環境省水・大気環境局大気環境課）に記載された電子顕微鏡法又は環境管理担当部長が適当と認める方法により測定された石綿繊維数濃度のことをいう。</p>	<p>・文修修正</p>
<p>(8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳</p> <p>各施設における石綿含有建材の使用状況や管理者が点検等を行った結果について、各局区庶務担当課を介して環境局環境対策課で取りまとめ、管理している台帳をいう。</p>	<p>(8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳</p> <p>各施設における石綿含有建材の使用状況や管理者が点検等を行った結果について、各局区庶務担当課を介して環境局環境対策課で取りまとめ、管理している台帳をいう。</p>	
<p>3 点検方法等フロー</p> <p>石綿含有の調査、損傷、劣化状態の確認、大気濃度測定及びボイラーの稼働や停止に係る点検方法等のフロー図は別添1のとおりとする。</p>	<p>3 点検方法等フロー</p> <p>石綿含有の調査、損傷、劣化状態の確認、大気・室内環境濃度測定及びボイラーの稼働や停止に係る点検方法等のフロー図は別添1のとおりとする。</p>	<p>・文修修正</p>
<p>4 点検</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p><u>ア 点検頻度及び点検実施者</u> 別添2のとおりとする。</p> <p><u>イ 調査手順</u> 札幌市市有施設アスベスト管理台帳に記載されている施設に関して、対象建材の損傷、劣化状態を確認する。損傷、劣化状態の確認方法については、別添3</p>	<p>4 点検</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p><u>ア 点検頻度及び点検実施者</u> 別添2のとおりとする。</p> <p><u>イ 調査手順</u> 札幌市市有施設アスベスト管理台帳に記載されている施設に関して、対象建材の損傷、劣化状態を確認する。損傷、劣化状態の確認方法については、別添3</p>	

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）																																								
<p>「損傷、劣化状態の確認方法等について」のとおりとする。また、施設の使用状況等から、管理者の判断により必要に応じて室内環境濃度の測定を行う。なお、測定方法については、別添8の参考8を参考にすること。</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>損傷、劣化の判断基準については次のとおりとする。なお、施設を所管する職員又は施設を管理する職員（以下「施設職員」という。）が点検を行う際に、判断が難しい場合は都市局建築保全課へ相談すること。</p> <p>また、室内環境濃度の測定を行い、総繊維数濃度として1本/Lを超えた結果を確認した場合は直ちに環境局環境対策課へ連絡し、その後の対応について協議すること。</p> <p>(7) 未措置（<u>囲い込み・封じ込めを除く</u>）</p> <table border="1" data-bbox="181 497 920 727"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>著しい損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>部分的な損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>通常 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 室内環境濃度測定の結果、電子顕微鏡等により石綿繊維数濃度が1本/Lを超えた場合には、目視による損傷、劣化範囲等を踏まえ、建材の劣化によるものと判断したときにはI又はIIに分類すること。</p> <p>(イ) 囲い込み</p> <table border="1" data-bbox="181 879 920 978"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>損傷 囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>通常 囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(ウ) 封じ込め</p> <table border="1" data-bbox="181 1010 920 1137"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>損傷 封じ込め時よりも吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材が劣化し、損傷している。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>通常 封じ込め時と同じ状態である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ (2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者 別添2のとおりとする。</p> <p>イ 調査手順 石綿含有の調査及び損傷、劣化状態の確認は<u>以下</u>の手順で行うこととする。</p>	損傷、劣化状態	定義	I	著しい損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。	II	部分的な損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。	III	通常 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。	損傷、劣化状態	定義	I	損傷 囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。	II	通常 囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。	損傷、劣化状態	定義	I	損傷 封じ込め時よりも吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材が劣化し、損傷している。	II	通常 封じ込め時と同じ状態である。	<p>「損傷、劣化状態の確認方法等について」のとおりとする。また、施設の使用状況等から、管理者の判断により必要に応じて室内環境濃度測定を行う。なお、測定方法については、別添8の参考8を参考にすること。</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>損傷、劣化の判断基準については次の(7)及び(イ)のとおりとする。なお、施設を所管する職員又は施設を管理する職員（以下「施設職員」という。）が点検を行う際に、判断が難しい場合は都市局建築保全課へ相談すること。</p> <p>また、室内環境濃度測定を行い、総繊維数濃度が1本/Lを超えた結果を確認した場合は直ちに環境局環境対策課へ連絡し、その後の対応について協議すること。</p> <p>(7) 未措置（<u>露出</u>）</p> <table border="1" data-bbox="960 497 1700 727"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>著しい損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>部分的な損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>通常 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 室内環境濃度測定の結果、電子顕微鏡等により石綿繊維数濃度が1本/Lを超えた場合には、目視による損傷、劣化範囲等を踏まえ、建材の劣化によるものと判断したときにはI又はIIに分類すること。</p> <p>(イ) <u>措置済み</u></p> <p>a 囲い込み</p> <table border="1" data-bbox="960 879 1700 978"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>囲-I</u></td> <td>損傷 囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。</td> </tr> <tr> <td><u>囲-II</u></td> <td>通常 囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>b 封じ込め</p> <table border="1" data-bbox="960 1010 1700 1137"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>封-I</u></td> <td>損傷 封じ込め時よりも吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材が劣化し、損傷している。</td> </tr> <tr> <td><u>封-II</u></td> <td>通常 封じ込め時と同じ状態である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ (2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者 別添2のとおりとする。</p> <p>イ 調査手順 石綿含有の調査及び損傷、劣化状態の確認は<u>次の(7)及び(イ)</u>の手順で行うこととする。</p>	損傷、劣化状態	定義	I	著しい損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。	II	部分的な損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。	III	通常 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。	損傷、劣化状態	定義	<u>囲-I</u>	損傷 囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。	<u>囲-II</u>	通常 囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。	損傷、劣化状態	定義	<u>封-I</u>	損傷 封じ込め時よりも吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材が劣化し、損傷している。	<u>封-II</u>	通常 封じ込め時と同じ状態である。	<p>・文修修正</p> <p>・文修修正</p> <p>・文修修正</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・囲い込み及び封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正</p>
損傷、劣化状態	定義																																									
I	著しい損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。																																									
II	部分的な損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。																																									
III	通常 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
I	損傷 囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。																																									
II	通常 囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
I	損傷 封じ込め時よりも吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材が劣化し、損傷している。																																									
II	通常 封じ込め時と同じ状態である。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
I	著しい損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。																																									
II	部分的な損傷、劣化 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。																																									
III	通常 吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
<u>囲-I</u>	損傷 囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。																																									
<u>囲-II</u>	通常 囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
<u>封-I</u>	損傷 封じ込め時よりも吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材が劣化し、損傷している。																																									
<u>封-II</u>	通常 封じ込め時と同じ状態である。																																									

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）																																								
<p>(7) 図面や工事の記録等から石綿含有建材の有無を確認する。</p> <p>(4) 対象建材の損傷、劣化状態について確認する。損傷、劣化状態の確認方法については、別添3「損傷、劣化状態の確認方法等について」のとおりとする。また、施設の使用状況等から、管理者の判断により必要に応じて室内環境濃度の測定を行う。なお、測定方法については、別添8の参考8を参考にする。</p> <p>石綿含有建材の有無について不明の場合は、建材の損傷、劣化状態について確認後、別添4のとおり0.1重量%を超える石綿を含有しているかどうかについての定性分析（以下「定性分析」という。）を行うこと。なお、定性分析により結果が判明するまでは、石綿を含有するものとして取り扱う。</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>損傷、劣化の判断基準については次のとおりとする。なお、施設職員が点検を行う際に、判断が難しい場合は都市局建築保全課へ相談すること。</p> <p>(7) 未措置（囲い込み・封じ込めを除く）</p> <table border="1" data-bbox="181 587 898 863"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 著しい損傷、劣化</td> <td>石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。</td> </tr> <tr> <td>II 部分的な損傷、劣化</td> <td>石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。</td> </tr> <tr> <td>III 通常</td> <td>石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 室内環境濃度測定の結果、石綿繊維数濃度が1本/Lを超えた場合については、目視による損傷、劣化範囲等を踏まえ、建材の劣化によるものと判断したときにはI又はIIに分類すること。</p> <p>(4) 囲い込み</p> <table border="1" data-bbox="181 986 913 1086"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(7) 封じ込め</p> <table border="1" data-bbox="181 1118 913 1246"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>封じ込め時よりも石綿含有保温材又は石綿含有耐火被覆材が劣化し、損傷している。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>封じ込め時と同じ状態である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p>	損傷、劣化状態	定義	I 著しい損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。	II 部分的な損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。	III 通常	石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。	損傷、劣化状態	定義	I 損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。	II 通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。	損傷、劣化状態	定義	I 損傷	封じ込め時よりも石綿含有保温材又は石綿含有耐火被覆材が劣化し、損傷している。	II 通常	封じ込め時と同じ状態である。	<p>(7) 図面や工事の記録等から石綿含有建材の有無を確認する。</p> <p>(4) 対象建材の損傷、劣化状態について確認する。損傷、劣化状態の確認方法については、別添3「損傷、劣化状態の確認方法等について」のとおりとする。また、施設の使用状況等から、管理者の判断により必要に応じて室内環境における繊維数濃度の測定を行う。なお、測定方法については、別添8の参考8を参考にすること。</p> <p>石綿含有建材の有無について不明の場合は、建材の損傷、劣化状態について確認後、別添4のとおり0.1重量%を超える石綿を含有しているかどうかについての定性分析（以下「定性分析」という。）を行うこと。なお、定性分析により結果が判明するまでは、石綿を含有するものとして取り扱う。</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>損傷、劣化の判断基準については次の(7)及び(4)のとおりとする。なお、施設職員が点検を行う際に、判断が難しい場合は都市局建築保全課へ相談すること。</p> <p>(7) 未措置（露出）</p> <table border="1" data-bbox="958 587 1697 863"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 著しい損傷、劣化</td> <td>石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。</td> </tr> <tr> <td>II 部分的な損傷、劣化</td> <td>石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。</td> </tr> <tr> <td>III 通常</td> <td>石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 室内環境濃度測定の結果、石綿繊維数濃度が1本/Lを超えた場合については、目視による損傷、劣化範囲等を踏まえ、建材の劣化によるものと判断したときにはI又はIIに分類すること。</p> <p>(4) 措置済み</p> <p>a. 囲い込み</p> <table border="1" data-bbox="958 986 1697 1086"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>囲-I 損傷</td> <td>囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。</td> </tr> <tr> <td>囲-II 通常</td> <td>囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>b. 封じ込め</p> <table border="1" data-bbox="958 1118 1697 1246"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>封-I 損傷</td> <td>封じ込め時よりも石綿含有保温材又は石綿含有耐火被覆材が劣化し、損傷している。</td> </tr> <tr> <td>封-II 通常</td> <td>封じ込め時と同じ状態である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 点検頻度及び点検実施者</p>	損傷、劣化状態	定義	I 著しい損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。	II 部分的な損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。	III 通常	石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。	損傷、劣化状態	定義	囲-I 損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。	囲-II 通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。	損傷、劣化状態	定義	封-I 損傷	封じ込め時よりも石綿含有保温材又は石綿含有耐火被覆材が劣化し、損傷している。	封-II 通常	封じ込め時と同じ状態である。	<p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・囲い込み及び封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正</p>
損傷、劣化状態	定義																																									
I 著しい損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。																																									
II 部分的な損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。																																									
III 通常	石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
I 損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。																																									
II 通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
I 損傷	封じ込め時よりも石綿含有保温材又は石綿含有耐火被覆材が劣化し、損傷している。																																									
II 通常	封じ込め時と同じ状態である。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
I 著しい損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。																																									
II 部分的な損傷、劣化	石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。																																									
III 通常	石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
囲-I 損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。																																									
囲-II 通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。																																									
損傷、劣化状態	定義																																									
封-I 損傷	封じ込め時よりも石綿含有保温材又は石綿含有耐火被覆材が劣化し、損傷している。																																									
封-II 通常	封じ込め時と同じ状態である。																																									

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）																																														
<p>別添2のとおりとする。</p> <p>なお、点検頻度については点検を実施した専門家の意見を踏まえた上で、必要に応じて点検回数を増やす等の対応を行う。</p> <p>イ 調査手順</p> <p>石綿含有の調査及び損傷、劣化状態の確認は<u>以下</u>の手順で行うこととする。</p> <p>(7) 図面や工事の記録等から石綿含有建材の有無を確認する。</p> <p>(4) 対象建材の損傷、劣化状態について確認する。損傷、劣化状態の確認方法については、別添3「損傷、劣化状態の確認方法等について」のとおりとする。また、石綿含有建材の有無について<u>不明</u>の場合は、別添4のとおり定性分析を行い、石綿含有建材の有無を判明させた上で、石綿含有建材があるものについて、対象建材の損傷、劣化状態について確認する。なお、定性分析により結果が判明するまでは、石綿を含有するものとして取り扱うが、定性分析の結果、石綿含有建材ではなかった場合は、<u>本要領</u>に沿った点検は行わずに、通常の維持管理を行うものとする。</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>損傷、劣化の判断基準については次のとおりとする。なお、囲い込みを行った施設についての点検を施設職員が行う際に、判断が難しい場合には都市局建築保全課へ相談すること。</p> <p>(7) 未措置（<u>囲い込み・封じ込めを除く</u>）</p>	<p>別添2のとおりとする。</p> <p>なお、点検頻度については点検を実施した専門家の意見を踏まえた上で、必要に応じて点検回数を増やす等の対応を行う。</p> <p>イ 調査手順</p> <p>石綿含有の調査及び損傷、劣化状態の確認は<u>次の(7)及び(4)</u>の手順で行うこととする。</p> <p>(7) 図面や工事の記録等から石綿含有建材の有無を確認する。</p> <p>(4) 対象建材の損傷、劣化状態について確認する。損傷、劣化状態の確認方法については、別添3「損傷、劣化状態の確認方法等について」のとおりとする。また、<u>(7)の手順により</u>石綿含有建材の有無が<u>判明しない</u>場合は、別添4のとおり定性分析を行い、石綿含有建材の有無を判明させた上で、石綿含有建材があるものについて、対象建材の損傷、劣化状態について確認する。なお、定性分析により結果が判明するまでは、石綿を含有するものとして取り扱うが、定性分析の結果、石綿含有建材ではなかった場合は、<u>要領</u>に沿った点検は行わずに、通常の維持管理を行うものとする。</p> <p>ウ 損傷、劣化の判断基準</p> <p>損傷、劣化の判断基準については次の<u>(7)及び(4)</u>のとおりとする。なお、囲い込みを行った施設についての点検を施設職員が行う際に、判断が難しい場合には都市局建築保全課へ相談すること。</p> <p>(7) 未措置（<u>露出</u>）</p>	<p>・ 文言修正</p> <p>・ 文言修正</p> <p>・ 文言修正</p> <p>・ 措置分類の文言整理</p>																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>断熱材の剥落</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>著しい損傷</td> <td>あり</td> <td>断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>著しい劣化</td> <td>一部あり</td> <td>断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>劣化</td> <td>一部あり/なし</td> <td>断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。</td> </tr> <tr> <td>IV</td> <td>一部劣化</td> <td>なし</td> <td>断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>通常</td> <td>なし</td> <td>断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。</td> </tr> </tbody> </table>	損傷、劣化状態	断熱材の剥落	定義	I	著しい損傷	あり	断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。	II	著しい劣化	一部あり	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。	III	劣化	一部あり/なし	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。	IV	一部劣化	なし	断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。	V	通常	なし	断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>断熱材の剥落</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>著しい損傷</td> <td>あり</td> <td>断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>著しい劣化</td> <td>一部あり</td> <td>断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>劣化</td> <td>一部あり/なし</td> <td>断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。</td> </tr> <tr> <td>IV</td> <td>一部劣化</td> <td>なし</td> <td>断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>通常</td> <td>なし</td> <td>断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。</td> </tr> </tbody> </table>	損傷、劣化状態	断熱材の剥落	定義	I	著しい損傷	あり	断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。	II	著しい劣化	一部あり	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。	III	劣化	一部あり/なし	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。	IV	一部劣化	なし	断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。	V	通常	なし	断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。	<p>・ 措置分類の文言整理</p>
損傷、劣化状態	断熱材の剥落	定義																																														
I	著しい損傷	あり	断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。																																													
II	著しい劣化	一部あり	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。																																													
III	劣化	一部あり/なし	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。																																													
IV	一部劣化	なし	断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。																																													
V	通常	なし	断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。																																													
損傷、劣化状態	断熱材の剥落	定義																																														
I	著しい損傷	あり	断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。																																													
II	著しい劣化	一部あり	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。																																													
III	劣化	一部あり/なし	断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。																																													
IV	一部劣化	なし	断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。																																													
V	通常	なし	断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。																																													
<p>(4) 囲い込み</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>損傷</td> <td>囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>通常</td> <td>囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。</td> </tr> </tbody> </table>	損傷、劣化状態	定義	I	損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。	II	通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。	<p>(4) <u>措置済み</u></p> <p><u>a</u> 囲い込み</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>囲-I</u></td> <td>損傷</td> <td>囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。</td> </tr> <tr> <td><u>囲-II</u></td> <td>通常</td> <td>囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。</td> </tr> </tbody> </table>	損傷、劣化状態	定義	<u>囲-I</u>	損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。	<u>囲-II</u>	通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。	<p>・ 措置分類の文言整理</p> <p>・ 囲い込み及び封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正</p>																														
損傷、劣化状態	定義																																															
I	損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。																																														
II	通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。																																														
損傷、劣化状態	定義																																															
<u>囲-I</u>	損傷	囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。																																														
<u>囲-II</u>	通常	囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。																																														

旧（現行）		新（改定素案）		備考（改定事項等）																																																				
<p><u>(ウ)</u> 封じ込め</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>封じ込め時よりも断熱材やライナー材が劣化し、損傷している。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>封じ込め時と同じ状態である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 改修等の措置</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>ア 未措置 (<u>囲い込み・封じ込めを除く</u>)</p> <p>4 (1)ウ(ア)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す「除去」、「<u>囲い込み</u>」又は「封じ込め」等（以下「除去等」という。）の改修の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 著しい損傷、劣化</td> <td>早急に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II 部分的な損傷、劣化</td> <td>補修を行い、維持管理を行う。また、優先的に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>III 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 「<u>囲い込み</u>」及び「封じ込め」を行おうとする場合は、環境局環境対策課及び都市局建築保全課と事前に協議することとする。</p> <p>イ <u>囲い込み</u></p> <p>4 (1)ウ(イ)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>早急に<u>囲い込み</u>材の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>ウ</u> 封じ込め</p> <p>4 (1)ウ(ウ)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 十分な付着強度があり、再施工時及び再施工後に剥落のおそれがない場合に限る。</p> <p>(2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 未措置 (<u>囲い込み・封じ込めを除く</u>)</p>		損傷、劣化状態	定義		I 損傷	封じ込め時よりも断熱材やライナー材が劣化し、損傷している。	II 通常	封じ込め時と同じ状態である。	損傷、劣化状態	改修等の措置	I 著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。	II 部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、優先的に除去等*の改修を行う。	III 通常	維持管理を行う。	損傷、劣化状態	改修等の措置	I 損傷	早急に <u>囲い込み</u> 材の改修を行う。	II 通常	維持管理を行う。	損傷、劣化状態	改修等の措置	I 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。	II 通常	維持管理を行う。	<p><u>b</u> 封じ込め</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>封-I 損傷</td> <td>封じ込め時よりも断熱材やライナー材が劣化し、損傷している。</td> </tr> <tr> <td>封-II 通常</td> <td>封じ込め時と同じ状態である。</td> </tr> </tbody> </table> <p>5 改修等の措置</p> <p>(1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>ア 未措置 (<u>露出</u>)</p> <p>4 (1)ウ(ア)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す「除去」、「<u>囲い込み</u>」又は「封じ込め」等（以下「除去等」という。）の改修等の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 著しい損傷、劣化</td> <td>早急に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II 部分的な損傷、劣化</td> <td>補修を行い、維持管理を行う。また、優先的に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>III 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 「<u>囲い込み</u>」及び「封じ込め」を行おうとする場合は、環境局環境対策課及び都市局建築保全課と事前に協議することとする。</p> <p>イ <u>措置済み</u></p> <p><u>(イ)</u> <u>囲い込み</u></p> <p>4 (1)ウ(イ) <u>a</u>の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す改修等の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>囲-I 損傷</td> <td>早急に<u>囲い込み</u>材の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>囲-II 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(ウ)</u> 封じ込め</p> <p>4 (1)ウ(ウ) <u>b</u>の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す改修等の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>封-I 損傷</td> <td>早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>封-II 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 十分な付着強度があり、再施工時及び再施工後に剥落のおそれがない場合に限る。</p> <p>(2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>ア 未措置 (<u>露出</u>)</p>		損傷、劣化状態	定義	封-I 損傷	封じ込め時よりも断熱材やライナー材が劣化し、損傷している。	封-II 通常	封じ込め時と同じ状態である。	損傷、劣化状態	改修等の措置	I 著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。	II 部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、優先的に除去等*の改修を行う。	III 通常	維持管理を行う。	損傷、劣化状態	改修等の措置	囲-I 損傷	早急に <u>囲い込み</u> 材の改修を行う。	囲-II 通常	維持管理を行う。	損傷、劣化状態	改修等の措置	封-I 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。	封-II 通常	維持管理を行う。
損傷、劣化状態	定義																																																							
I 損傷	封じ込め時よりも断熱材やライナー材が劣化し、損傷している。																																																							
II 通常	封じ込め時と同じ状態である。																																																							
損傷、劣化状態	改修等の措置																																																							
I 著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。																																																							
II 部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、優先的に除去等*の改修を行う。																																																							
III 通常	維持管理を行う。																																																							
損傷、劣化状態	改修等の措置																																																							
I 損傷	早急に <u>囲い込み</u> 材の改修を行う。																																																							
II 通常	維持管理を行う。																																																							
損傷、劣化状態	改修等の措置																																																							
I 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。																																																							
II 通常	維持管理を行う。																																																							
損傷、劣化状態	定義																																																							
封-I 損傷	封じ込め時よりも断熱材やライナー材が劣化し、損傷している。																																																							
封-II 通常	封じ込め時と同じ状態である。																																																							
損傷、劣化状態	改修等の措置																																																							
I 著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。																																																							
II 部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、優先的に除去等*の改修を行う。																																																							
III 通常	維持管理を行う。																																																							
損傷、劣化状態	改修等の措置																																																							
囲-I 損傷	早急に <u>囲い込み</u> 材の改修を行う。																																																							
囲-II 通常	維持管理を行う。																																																							
損傷、劣化状態	改修等の措置																																																							
封-I 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。																																																							
封-II 通常	維持管理を行う。																																																							

旧（現行）		新（改定素案）		備考（改定事項等）																						
4 (2)ウ(7)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す除去等の改修の措置を行うものとする。		4 (2)ウ(7)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す除去等の改修の措置を行うものとする。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>著しい損傷、劣化</td> <td>早急に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>部分的な損傷、劣化</td> <td>補修を行い、維持管理を行う。また、今後の計画的な除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	改修等の措置	I	著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。	II	部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、今後の計画的な除去等*の改修を行う。	III	通常	維持管理を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>著しい損傷、劣化</td> <td>早急に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>部分的な損傷、劣化</td> <td>補修を行い、維持管理を行う。また、今後の計画的な除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	改修等の措置	I	著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。	II	部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、今後の計画的な除去等*の改修を行う。	III	通常	維持管理を行う。	
損傷、劣化状態	改修等の措置																									
I	著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。																								
II	部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、今後の計画的な除去等*の改修を行う。																								
III	通常	維持管理を行う。																								
損傷、劣化状態	改修等の措置																									
I	著しい損傷、劣化	早急に除去等*の改修を行う。																								
II	部分的な損傷、劣化	補修を行い、維持管理を行う。また、今後の計画的な除去等*の改修を行う。																								
III	通常	維持管理を行う。																								
<p>※ 「囲い込み」及び「封じ込め」を行うとする場合は、環境局環境対策課及び都市局建築保全課と事前に協議することとする。</p> <p>イ 囲い込み</p>		<p>※ 「囲い込み」及び「封じ込め」を行うとする場合は、環境局環境対策課及び都市局建築保全課と事前に協議することとする。</p> <p>イ 措置済み (7) 囲い込み</p>																								
4 (2)ウ(イ)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修の措置を行うものとする。		4 (2)ウ(イ) a の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す改修等の措置を行うものとする。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>損傷</td> <td>早急に囲い込み材の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	改修等の措置	I	損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。	II	通常	維持管理を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>囲-I</td> <td>損傷</td> <td>早急に囲い込み材の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>囲-II</td> <td>通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	改修等の措置	囲-I	損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。	囲-II	通常	維持管理を行う。	・措置分類の文言整理 ・文言修正						
損傷、劣化状態	改修等の措置																									
I	損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。																								
II	通常	維持管理を行う。																								
損傷、劣化状態	改修等の措置																									
囲-I	損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。																								
囲-II	通常	維持管理を行う。																								
ウ 封じ込め		ウ 封じ込め																								
4 (2)ウ(ウ)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修の措置を行うものとする。		4 (2)ウ(イ) b の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す改修等の措置を行うものとする。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>損傷</td> <td>早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	改修等の措置	I	損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。	II	通常	維持管理を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>封-I</td> <td>損傷</td> <td>早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>封-II</td> <td>通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	改修等の措置	封-I	損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。	封-II	通常	維持管理を行う。	・文言修正 ・囲い込み及び封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正						
損傷、劣化状態	改修等の措置																									
I	損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。																								
II	通常	維持管理を行う。																								
損傷、劣化状態	改修等の措置																									
封-I	損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。																								
封-II	通常	維持管理を行う。																								
※ 十分な付着強度があり、再施工時及び再施工後に剥落のおそれがない場合に限る。		※ 十分な付着強度があり、再施工時及び再施工後に剥落のおそれがない場合に限る。		・囲い込み及び封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正																						

旧（現行）		新（改定素案）		備考（改定事項等）																																												
<p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 未措置（<u>囲い込み・封じ込めを除く</u>）</p> <p>4 (3)ウ(7)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修等の措置を行うものとする。詳細については(7)から(イ)に記載する。</p>		<p>(3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>ア 未措置（<u>露出</u>）</p> <p>4 (3)ウ(7)の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修等の措置を行うものとする。詳細については(7)から(イ)に記載する。</p>		<p>・措置分類の文言整理</p> <p>・文言修正</p>																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>大気測定</th> <th>改修等の措置*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 著しい損傷</td> <td>（ボイラー停止後に実施）</td> <td>直ちにボイラーを停止し、環境対策課へ連絡。囲い込みを行った上で、早急に除去を行うよう検討する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 著しい劣化</td> <td>1本/L超</td> <td>環境対策課と協議の上、決定すること。</td> </tr> <tr> <td>1本/L以下</td> <td>優先的に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 劣化</td> <td>1本/L超</td> <td>環境対策課と協議の上、決定すること。</td> </tr> <tr> <td>1本/L以下</td> <td>維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>IV 一部劣化</td> <td>—</td> <td>維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を検討する。</td> </tr> <tr> <td>V 通常</td> <td>—</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	大気測定		改修等の措置*	I 著しい損傷	（ボイラー停止後に実施）	直ちにボイラーを停止し、環境対策課へ連絡。囲い込みを行った上で、早急に除去を行うよう検討する。	II 著しい劣化	1本/L超	環境対策課と協議の上、決定すること。	1本/L以下	優先的に除去等*の改修を行う。	III 劣化	1本/L超	環境対策課と協議の上、決定すること。	1本/L以下	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を行う。	IV 一部劣化	—	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を検討する。	V 通常	—	維持管理を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>大気測定</th> <th>改修等の措置*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 著しい損傷</td> <td>（ボイラー停止後に実施）</td> <td>直ちにボイラーを停止し、環境局環境対策課へ連絡。囲い込みを行った上で、早急に除去を行うよう検討する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">II 著しい劣化</td> <td>1本/L超</td> <td>環境局環境対策課と協議の上、決定すること。</td> </tr> <tr> <td>1本/L以下</td> <td>優先的に除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">III 劣化</td> <td>1本/L超</td> <td>環境局環境対策課と協議の上、決定すること。</td> </tr> <tr> <td>1本/L以下</td> <td>維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>IV 一部劣化</td> <td>—</td> <td>維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を検討する。</td> </tr> <tr> <td>V 通常</td> <td>—</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		損傷、劣化状態	大気測定	改修等の措置*	I 著しい損傷	（ボイラー停止後に実施）	直ちにボイラーを停止し、 環境局 環境対策課へ連絡。囲い込みを行った上で、早急に除去を行うよう検討する。	II 著しい劣化	1本/L超	環境局 環境対策課と協議の上、決定すること。	1本/L以下	優先的に除去等*の改修を行う。	III 劣化	1本/L超	環境局 環境対策課と協議の上、決定すること。	1本/L以下	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を行う。	IV 一部劣化	—	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を検討する。	V 通常	—	維持管理を行う。
損傷、劣化状態	大気測定	改修等の措置*																																														
I 著しい損傷	（ボイラー停止後に実施）	直ちにボイラーを停止し、環境対策課へ連絡。囲い込みを行った上で、早急に除去を行うよう検討する。																																														
II 著しい劣化	1本/L超	環境対策課と協議の上、決定すること。																																														
	1本/L以下	優先的に除去等*の改修を行う。																																														
III 劣化	1本/L超	環境対策課と協議の上、決定すること。																																														
	1本/L以下	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を行う。																																														
IV 一部劣化	—	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を検討する。																																														
V 通常	—	維持管理を行う。																																														
損傷、劣化状態	大気測定	改修等の措置*																																														
I 著しい損傷	（ボイラー停止後に実施）	直ちにボイラーを停止し、 環境局 環境対策課へ連絡。囲い込みを行った上で、早急に除去を行うよう検討する。																																														
II 著しい劣化	1本/L超	環境局 環境対策課と協議の上、決定すること。																																														
	1本/L以下	優先的に除去等*の改修を行う。																																														
III 劣化	1本/L超	環境局 環境対策課と協議の上、決定すること。																																														
	1本/L以下	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を行う。																																														
IV 一部劣化	—	維持管理を行う。また、計画的な除去等*の改修を検討する。																																														
V 通常	—	維持管理を行う。																																														
<p>※ 「囲い込み」及び「封じ込め」を行おうとする場合は、環境局環境対策課及び都市局建築保全課と事前に協議することとする。</p> <p>(7) 著しい損傷</p> <p>施設管理者は原則直ちにボイラーを停止し、環境局環境対策課に連絡する。また、煙突の囲い込みを行うとともに、早急に石綿含有断熱材の除去を行うよう検討する。ボイラー停止後は別添5「石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について」に従い、煙突周辺の大気中における濃度測定を行うこととする。なお、煙突の囲い込みについて、早急な対応が難しい場合は、囲い込みをするまで月1回以上の点検により、損傷、劣化状態の確認を行う。</p> <p>(イ) 著しい劣化</p> <p>別添5「石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について」に従い、煙突周辺の大気中における濃度測定を行うこととする。また、その測定結果により次のa又はbの対応を取る。</p> <p>a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合</p> <p>環境対策課と協議の上、測定結果等の状況に応じて次の(a)から(d)の対応を取り、その後の除去等の改修については施設管理者が総合的に判断する。詳細は別添1-3のとおりとする。なお、早急な改修が必要となった場合は、(7)と同様に措置を行うものとする。</p> <p>(a) 大気測定</p> <p>(b) 電子顕微鏡での再分析</p>		<p>※ 「囲い込み」及び「封じ込め」を行おうとする場合は、環境局環境対策課及び都市局建築保全課と事前に協議することとする。</p> <p>(7) 著しい損傷</p> <p>施設管理者は原則直ちにボイラーを停止し、環境局環境対策課に連絡する。また、煙突の囲い込みを行うとともに、早急に石綿含有断熱材の除去を行うよう検討する。ボイラー停止後は別添5「石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について」に従い、煙突周辺の大気中における濃度測定を行うこととする。なお、煙突の囲い込みについて、早急な対応が難しい場合は、囲い込みをするまで月1回以上の点検により、損傷、劣化状態の確認を行う。</p> <p>(イ) 著しい劣化</p> <p>別添5「石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について」に従い、煙突周辺の大気中における濃度測定を行うこととする。また、その測定結果により次のa又はbの対応を取る。</p> <p>a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合</p> <p>環境局環境対策課と協議の上、測定結果等の状況に応じて次の(a)から(d)の対応を取り、その後の除去等の改修については施設管理者が総合的に判断する。詳細は別添1-3のとおりとする。なお、早急な改修が必要となった場合は、(7)と同様に措置を行うものとする。</p> <p>(a) 大気濃度測定</p> <p>(b) 電子顕微鏡での再分析</p>		<p>・文言修正</p>																																												

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）												
<p>(c) ボイラー停止 (d) ボイラー停止中の大気測定</p> <p>b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合 年に2回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認するとともに、優先的に除去等の改修を行う。</p> <p>(ウ) 劣化 別添5「石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について」に従い、煙突周辺の大気中における濃度測定を行うこととする。また、その測定結果により次のa又はbの対応を取る。</p> <p>a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合 (イ) aと同様に措置を行うものとする。</p> <p>b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合 年に1回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認するとともに、今後計画的に除去等の改修を行うことを検討する。</p> <p>(エ) 一部劣化 年に1回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認するとともに今後計画的に除去等の改修を行うことを検討する。</p> <p>(オ) 通常 年に1回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認する。</p> <p><u>イ 囲い込み</u></p> <p>4 (3) ウ (イ) の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修の措置を行うものとする。</p>	<p>(c) ボイラー停止 (d) ボイラー停止中の大気濃度測定</p> <p>b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合 年に2回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認するとともに、優先的に除去等の改修を行う。</p> <p>(ウ) 劣化 別添5「石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について」に従い、煙突周辺の大気中における濃度測定を行うこととする。また、その測定結果により次のa又はbの対応を取る。</p> <p>a 総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合 (イ) aと同様に措置を行うものとする。</p> <p>b 総繊維数濃度が1本/L以下の場合 年に1回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認するとともに、今後計画的に除去等の改修を行うことを検討する。</p> <p>(エ) 一部劣化 年に1回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認するとともに今後計画的に除去等の改修を行うことを検討する。</p> <p>(オ) 通常 年に1回以上の定期点検等により、損傷、劣化の有無を引き続き確認する。</p> <p><u>イ 措置済み</u></p> <p><u>(7) 囲い込み</u></p> <p>4 (3) ウ (イ) a の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す改修等の措置を行うものとする。</p>	<p>・文言修正</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>早急に囲い込み材の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	損傷、劣化状態	改修等の措置	I 損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。	II 通常	維持管理を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>囲-I</u> 損傷</td> <td>早急に囲い込み材の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td><u>囲-II</u> 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	損傷、劣化状態	改修等の措置	<u>囲-I</u> 損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。	<u>囲-II</u> 通常	維持管理を行う。	<p>・措置分類の文言整理</p> <p>・文言修正</p>
損傷、劣化状態	改修等の措置													
I 損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。													
II 通常	維持管理を行う。													
損傷、劣化状態	改修等の措置													
<u>囲-I</u> 損傷	早急に囲い込み材の改修を行う。													
<u>囲-II</u> 通常	維持管理を行う。													
<p><u>ウ</u> 封じ込め</p> <p>4 (3) ウ (ウ) の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次に示す改修の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 損傷</td> <td>早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td>II 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 十分な付着強度があり、再施工時及び再施工後に剥落のおそれがない場合に限る。</p>	損傷、劣化状態	改修等の措置	I 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。	II 通常	維持管理を行う。	<p><u>(イ)</u> 封じ込め</p> <p>4 (3) ウ (イ) b の損傷、劣化の判断基準における劣化状態に応じて、施設の管理者は次の表に示す改修等の措置を行うものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷、劣化状態</th> <th>改修等の措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>封-I</u> 損傷</td> <td>早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。</td> </tr> <tr> <td><u>封-II</u> 通常</td> <td>維持管理を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 十分な付着強度があり、再施工時及び再施工後に剥落のおそれがない場合に限る。</p>	損傷、劣化状態	改修等の措置	<u>封-I</u> 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。	<u>封-II</u> 通常	維持管理を行う。	<p>・文言修正</p> <p>・囲い込み及び封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正</p>
損傷、劣化状態	改修等の措置													
I 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。													
II 通常	維持管理を行う。													
損傷、劣化状態	改修等の措置													
<u>封-I</u> 損傷	早急に除去又は封じ込めの再施工*等の改修を行う。													
<u>封-II</u> 通常	維持管理を行う。													
<p>6 点検結果の記録、保存及び報告</p> <p>(1) 記録</p>	<p>6 点検結果の記録、保存及び報告</p> <p>(1) 記録</p>													

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>施設の管理者は、点検結果については、様式「調査表」（別添6）に記録しておく。なお、様式への記載方法については、「アスベストの使用状況及び除去等情報記入上の注意」（別添7）に従うものとする。</p> <p>(2) 保存</p> <p>施設の管理者は、対象とする石綿含有建材を除去し、また解体した後も、(1)の記録について40年間保管すること。</p> <p>(3) 報告</p> <p>施設の管理者は、(1)にて記録した様式「調査表」により点検結果を各局区庶務担当課に報告する。各局区庶務担当課は毎年4月末日までに環境局環境対策課に報告する。なお、報告する点検結果については、前年度に点検した結果とする。</p> <p>7 結果の取りまとめ</p> <p>環境局環境対策課は、各局庶務担当課から報告を受けた結果を札幌市市有施設アスベスト管理台帳に取りまとめ、5月末日までに環境局の電子キャビネットに掲示する。</p> <p>8 備考等</p> <p>(1) 省庁等による点検について</p> <p>各施設を所管する省庁の通知等により点検、調査依頼があった場合は原則その都度関係部局において点検、調査を行うこととするが、調査内容が要領と同一の場合はこの限りではない。なお、調査内容が要領と異なる場合は、都度関係部局と環境局環境対策課で協議の上、対応を検討する。</p> <p>(2) 要領の見直しについて</p> <p>要領の内容については、(1)における改正の他、年1回点検結果の取りまとめ時に施設の管理者から意見があった場合は、当該意見を考慮し、必要に応じて要領の改正について検討する。なお、要領を改正する際は、札幌市アスベスト問題対策会議において審議し、承認を得ることとする。</p> <p>9 参考資料</p> <p>別添8のとおり</p> <p>10 問い合わせ先</p> <p>(1) 本要領や調査内容、大気中のアスベスト濃度測定等に関すること 環境局環境都市推進部環境対策課 011-211-2882</p> <p>(2) 石綿含有建材、石綿除去工事に関すること 都市局建築部建築保全課 011-211-2811</p>	<p>施設の管理者は、点検結果については、様式「調査表」（別添6）に記録しておく。なお、様式「調査表」への記載方法については、「調査表記入上の注意」（別添7）に従うものとする。</p> <p>(2) 保存</p> <p>施設の管理者は、対象とする石綿含有建材を除去し、また解体した後も、(1)の記録について40年間保管すること。</p> <p>(3) 報告</p> <p>施設の管理者は、(1)にて記録した様式「調査表」により点検結果を各局区庶務担当課に報告する。各局区庶務担当課は局区内の取りまとめを行い、毎年4月末日までに環境局環境対策課に報告する。なお、報告する点検結果については、前年度に点検した結果とする。</p> <p>7 結果の取りまとめ</p> <p>環境局環境対策課は、各局区庶務担当課から報告を受けた結果を札幌市市有施設アスベスト管理台帳に取りまとめ、5月末日までに環境局の電子キャビネットに掲示する。</p> <p>8 備考等</p> <p>(1) 省庁等による点検について</p> <p>各施設を所管する省庁の通知等により点検、調査依頼があった場合は原則その都度関係部局において点検、調査を行うこととするが、調査内容が要領と同一の場合はこの限りではない。なお、調査内容が要領と異なる場合は、都度関係部局と環境局環境対策課で協議の上、対応を検討する。</p> <p>(2) 要領の見直しについて</p> <p>要領の内容については、(1)における省庁等による点検対象等の変更のほか、年1回点検結果の取りまとめ時に施設の管理者から意見があった場合は、当該意見を考慮し、必要に応じて要領の改正について検討する。なお、要領を改正する際は、札幌市アスベスト問題対策会議において審議し、承認を得ることとする。</p> <p>9 参考資料</p> <p>別添8のとおり</p> <p>10 問い合わせ先</p> <p>(1) 本要領や調査内容、大気・室内環境濃度測定等に関すること 環境局環境都市推進部環境対策課 011-211-2882</p> <p>(2) 石綿含有建材、石綿除去工事に関すること 都市局建築部建築保全課 011-211-2811</p>	<p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p>

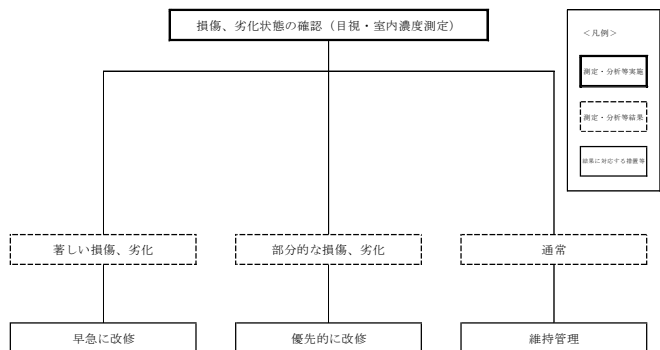
旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(3) 点検実施者の安全確保、石綿障害予防規則による届出等に関する事</p> <p>札幌中央労働基準監督署 011-737-1190 (中央区・北区・南区・西区・手稲区)</p> <p>札幌東労働基準監督署 011-894-1120 (東区・白石区・厚別区・豊平区・清田区)</p>	<p>(3) 点検実施者の安全確保、石綿障害予防規則による届出等に関する事</p> <p>札幌中央労働基準監督署 011-737-1192 (中央区・北区・南区・西区・手稲区)</p> <p>札幌東労働基準監督署 011-894-2816 (東区・白石区・厚別区・豊平区・清田区)</p>	<p>・ダイアルイン化に伴う修正</p>
<p>11 添付資料</p>	<p>11 添付資料</p>	
<p>別添1) 各石綿含有建材における点検フロー</p> <p>1-1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材点検フロー</p> <p>1-2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材点検フロー</p> <p>1-3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）点検フロー</p> <p>1-4) 囲い込み・封じ込めの石綿含有建材点検フロー</p> <p>別添2) 点検頻度及び点検実施者</p> <p>別添3) 損傷、劣化状態の確認方法等について</p> <p>別添4) 石綿含有確認のための定性分析について</p> <p>別添5) 石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について</p> <p>別添6) 調査表・記載例</p> <p>6-1) 調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>6-2) 調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>6-3) 記載例－調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>6-4) 記載例－調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>6-5) 施設分類</p> <p>6-6) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（吹付け石綿等）</p> <p>6-7) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（石綿含有保温材等）</p> <p>6-8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む））</p> <p>別添7) アスベストの使用状況及び除去等情報記入上の注意</p> <p>7-1) 吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>7-2) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>7-3) 施設分類</p> <p>7-4) 管理台帳登録件数－吹付け石綿等</p> <p>7-5) 管理台帳登録件数－石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材</p> <p>7-6) 管理台帳登録件数－煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>別添8) 参考資料</p>	<p>別添1) 各石綿含有建材における点検フロー</p> <p>1-1) 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材点検フロー</p> <p>1-2) 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材点検フロー</p> <p>1-3) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）点検フロー</p> <p>1-4) 囲い込み・封じ込めの石綿含有建材点検フロー</p> <p>別添2) 点検頻度及び点検実施者</p> <p>別添3) 損傷、劣化状態の確認方法等について</p> <p>別添4) 石綿含有確認のための定性分析について</p> <p>別添5) 石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について</p> <p>別添6) 調査表・記載例</p> <p>6-1) 調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>6-2) 調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>6-3) 調査表《施設分類》</p> <p>6-4) 記載例－調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>6-5) 記載例－調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>6-6) 記載例－調査表《施設分類》</p> <p>6-7) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（吹付け石綿等）</p> <p>6-8) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（石綿含有保温材等）</p> <p>6-9) 札幌市市有施設アスベスト管理台帳登録件数（煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む））</p> <p>別添7) 調査表記入上の注意</p> <p>7-1) 吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>7-2) 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>7-3) 施設分類</p> <p>7-4) 管理台帳登録件数－吹付け石綿等</p> <p>7-5) 管理台帳登録件数－石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材</p> <p>7-6) 管理台帳登録件数－煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>別添8) 参考資料</p>	<p>・記載順変更、文言修正</p> <p>・記載順変更、記載例追加に伴う修正</p> <p>・文言修正</p>

旧（現行）

（別添1 変更分のみ記載）

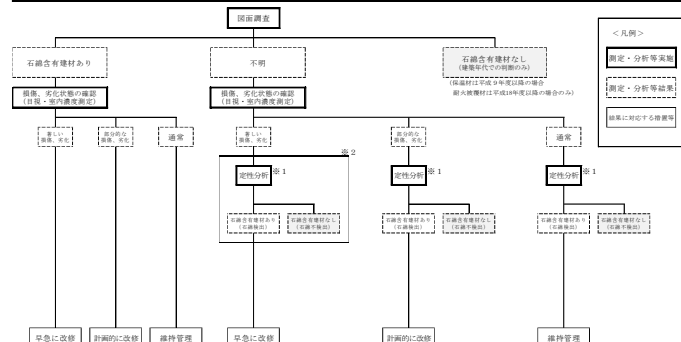
別添1-1

吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材点検フロー



別添1-2

石綿を含有する保温材及び耐火被覆材点検フロー



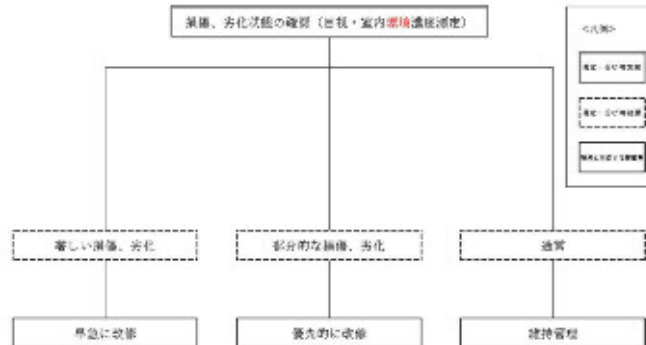
※1 定性分析を実施するまでは石綿を含有するものとして取り扱う。
 ※2 優先的に定性分析を行う。

新（改定素案）

（別添1 変更分のみ記載）

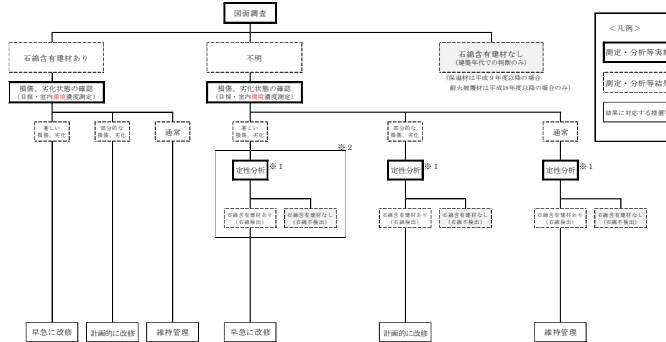
別添1-1

吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材点検フロー



別添1-2

石綿を含有する保温材及び耐火被覆材点検フロー



※1 定性分析を実施するまでは石綿を含有するものとして取り扱う。
 ※2 優先的に定性分析を行う。

備考（改定事項等）

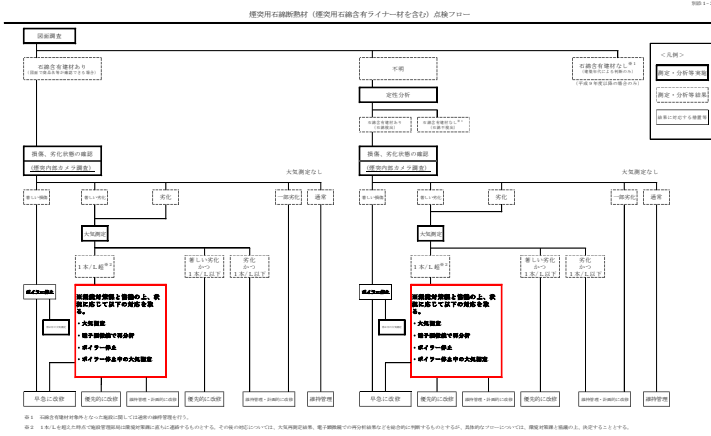
・文言修正

・文言修正

※フローチャート内の赤枠は、当初より着色しているものです。今回修正はありません。

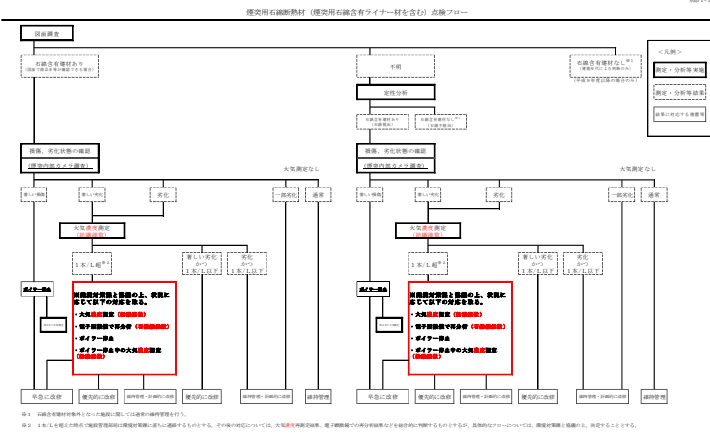
旧 (現行)

(別添1 変更分のみ記載)



新 (改正案)

(別添1 変更分のみ記載)



備考 (改定事項等)

・文言修正

※フローチャート内の赤枠は、当初より着色しているものです。今回修正はありません。

旧（現行）		新（改定素案）		備考（改定事項等）	
別添2 点検頻度及び点検実施者		別添2 点検頻度及び点検実施者			
1 点検頻度 各施設の点検頻度については以下のとおりとする。		1 点検頻度 各施設の点検頻度については以下のとおりとする。 <u>なお、損傷、劣化状態については、直近の点検結果を参照すること。</u>		・文言追記 ・措置分類の文言整理、損傷、劣化状態の追記	
対象となる建材	措置の状況	改修等の措置	施設の使用頻度	点検頻度	
吹付け石綿等、 屋根用折板石綿 断熱材、石綿を 含有する保温材 及び耐火被覆材	囲い込み及び 封じ込め以外	早急に改修	高	月に1回以上	年に4回以上
			低又は不使用	年に2回以上	
		優先的に改修/ 計画的に改修	高		年に1回以上
			低又は不使用		
	維持管理	高	年に1回以上		
		低又は不使用			
囲い込み	早急に改修	—	月に1回以上	年に1回以上	
	維持管理	—			
封じ込め	早急に改修	二	月に1回以上	年に1回以上	
	維持管理	二			
対象となる建材	措置の状況	改修等の措置	点検頻度		
煙突用石綿断熱材 (煙突用石綿含有ラ イナー材を含む)	囲い込み及び 封じ込め以外	早急に改修	月に1回以上	年に2回以上	
		優先的に改修	年に1回以上		
		計画的に改修	年に1回以上	年に1回以上	
		維持管理			
	囲い込み	早急に改修	月に1回以上	年に1回以上	
		維持管理			
封じ込め	早急に改修	月に1回以上	年に1回以上		
	維持管理				
対象となる建材	措置の状況	改修等の措置 (損傷、劣化状態)	点検頻度		
吹付け石綿等及び 屋根用折板石綿断 熱材	未措置（露出）	早急に改修 (I著しい損傷/ II著しい劣化かつ1本/L超 ^{a)} / III劣化かつ1本/L超 ^{a)})	高	月に1回以上	年に2回以上
			低又は不使用	年に1回以上	
		優先的に改修/ 計画的に改修/維持管理 (III劣化かつ1本/L超 ^{a)} / III劣化かつ1本/L以下/ IV一部劣化/V通常/)	高		年に1回以上
			低又は不使用		
	措置済み（囲い込み 及び封じ込め）	早急に改修 (囲-I損傷/封-I損傷)	月に1回以上	年に1回以上	
		維持管理 (囲-I損傷/封-I損傷)			
対象となる建材	措置の状況	改修等の措置	点検実施者		
吹付け石綿等及び 屋根用折板石綿断 熱材	未措置 措置済み (封じ込め及び囲い込み)	施設職員 ^{*1} 、委託業者 ^{*2} 又は専門家 ^{*3}			
石綿を含有する保 温材及び耐火被覆 材	未措置 措置済み (封じ込め及び囲い込み)	施設職員 ^{*1} 、委託業者 ^{*2} 又は専門家 ^{*3}			
煙突用石綿断熱材 (煙突用石綿含有 ライナー材を含 む)	未措置	専門家 ^{*3}			
	措置済み (封じ込め)				
	措置済み (囲い込み)				
<p>※1 環境対策課と協議の上、状況に応じて決定する。</p>					
<p>・注釈の追記</p>					

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）																	
<p>※1 施設職員とは施設を所管する職員又は施設を管理する職員のことをいう。</p> <p>※2 委託業者とは、施設の所管部局から委託を受けて点検等を実施する業者のことをいう。</p> <p>※3 専門家とは、「建築物石綿含有建材調査者講習登録規程」（平成30年10月23日告示）により厚生労働省に登録された機関が行う講習を修了した特定建築物石綿含有建材調査者及び建築物石綿含有建材調査者並びに日本アスベスト調査診断協会に登録された者のいずれかの有資格者のことをいう。</p>	<p>2 点検実施者</p> <p>点検の実施については各施設の管理者が責任を有し、その実施者については以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="958 296 1697 609"> <thead> <tr> <th>対象となる建材</th> <th>措置の状況</th> <th>点検実施者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</td> <td>未措置（露出）</td> <td rowspan="2">施設職員^{※2}、委託業者^{※3} 又は専門家^{※4}</td> </tr> <tr> <td>措置済み（囲い込み及び封じ込め）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</td> <td>未措置（露出）</td> <td rowspan="2">施設職員^{※2}、委託業者^{※3} 又は専門家^{※4}</td> </tr> <tr> <td>措置済み（囲い込み及び封じ込め）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</td> <td>未措置（露出）</td> <td>専門家^{※4}</td> </tr> <tr> <td>措置済み（封じ込め）</td> <td rowspan="2">施設職員^{※2}、委託業者^{※3} 又は専門家^{※4}</td> </tr> <tr> <td>措置済み（囲い込み）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 施設職員とは施設を所管する職員又は施設を管理する職員のことをいう。</p> <p>※3 委託業者とは、施設の所管部局から委託を受けて点検等を実施する業者のことをいう。</p> <p>※4 専門家とは、「建築物石綿含有建材調査者講習登録規程」（平成30年10月23日告示）により厚生労働省に登録された機関が行う講習を修了した特定建築物石綿含有建材調査者及び建築物石綿含有建材調査者並びに日本アスベスト調査診断協会に登録された者のいずれかの有資格者のことをいう。</p>	対象となる建材	措置の状況	点検実施者	吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材	未措置（露出）	施設職員 ^{※2} 、委託業者 ^{※3} 又は専門家 ^{※4}	措置済み（囲い込み及び封じ込め）	石綿を含有する保温材及び耐火被覆材	未措置（露出）	施設職員 ^{※2} 、委託業者 ^{※3} 又は専門家 ^{※4}	措置済み（囲い込み及び封じ込め）	煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）	未措置（露出）	専門家 ^{※4}	措置済み（封じ込め）	施設職員 ^{※2} 、委託業者 ^{※3} 又は専門家 ^{※4}	措置済み（囲い込み）	<ul style="list-style-type: none"> 措置分類の文言整理 注記の追記による番号整理
対象となる建材	措置の状況	点検実施者																	
吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材	未措置（露出）	施設職員 ^{※2} 、委託業者 ^{※3} 又は専門家 ^{※4}																	
	措置済み（囲い込み及び封じ込め）																		
石綿を含有する保温材及び耐火被覆材	未措置（露出）	施設職員 ^{※2} 、委託業者 ^{※3} 又は専門家 ^{※4}																	
	措置済み（囲い込み及び封じ込め）																		
煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）	未措置（露出）	専門家 ^{※4}																	
	措置済み（封じ込め）	施設職員 ^{※2} 、委託業者 ^{※3} 又は専門家 ^{※4}																	
措置済み（囲い込み）																			

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添3</p> <p style="text-align: center;">損傷、劣化状態の確認方法等について</p> <p>1 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>(1) 確認方法 吹付け石綿等の吹付け材を使用している箇所及び屋根用折板石綿断熱材を使用している箇所について目視点検を行う。</p> <p>(2) 点検に際しての注意事項等 ア 目視点検を行う際は、原則呼吸用保護具及び作業衣を着用することとし、吹付け材や屋根用折板断熱材には決して触れないこと。呼吸用保護具は粒子捕集効率95.0%以上とする。 イ 囲い込み材を点検する際には、周囲に石綿が飛散することのないように慎重に確認するものとする。</p> <p>2 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>(1) 確認方法 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材を使用している箇所について目視点検を行う。</p> <p>(2) 点検に際しての注意事項等 ア 目視点検を行う際は、原則呼吸用保護具及び作業衣を着用することとし、石綿を含有する保温材及び耐火被覆材には触れないこと。呼吸用保護具は粒子捕集効率95.0%以上とする。 イ 石綿を含有する保温材の保護材や、囲い込み材を点検する際には、周囲に石綿が飛散することのないように慎重に確認するものとする。</p> <p>3 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>(1) 囲い込みを除く</p> <p>ア 確認方法 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）の確認は、(ア)又は(イ)にて行う。ただし、煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）全体の損傷、劣化状況の詳細な把握が必要であることから、過年度の調査も含めて少なくとも1回は(イ)に記載するファイバースコープ等を使用した煙道全体の調査を行うものとする。</p> <p>(ア) 煙突上部（排出口）及び煙突下部（灰出し口等）から、それぞれデジタルカメラ等による、損傷、劣化状況についての確認を行う。また、点検口については剥落物等の有無についても確認を行う。</p> <p>(イ) 煙突上部（排出口）からファイバースコープ等を使用した煙道全体の、損傷、劣化状況についての確認を行う。</p> <p>イ 点検に際する注意事項等 (ア) 点検は、ボイラー等の使用を停止した状態で行うなど、安全面を考慮した上で行うこと。</p>	<p style="text-align: right;">別添3</p> <p style="text-align: center;">損傷、劣化状態の確認方法等について</p> <p>1 吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材</p> <p>(1) 確認方法 吹付け石綿等の吹付け材及び屋根用折板石綿断熱材を使用している箇所について目視点検を行う。</p> <p>(2) 点検に際しての注意事項等 ア 目視点検を行う際は、原則呼吸用保護具及び作業衣を着用することとし、吹付け材や屋根用折板断熱材には決して触れないこと。呼吸用保護具は粒子捕集効率95.0%以上とする。 イ 囲い込み材及び封じ込め状況を点検する際には、周囲に石綿を飛散させることのないように慎重に確認するものとする。</p> <p>2 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材</p> <p>(1) 確認方法 石綿を含有する保温材及び耐火被覆材を使用している箇所について目視点検を行う。</p> <p>(2) 点検に際しての注意事項等 ア 目視点検を行う際は、原則呼吸用保護具及び作業衣を着用することとし、石綿を含有する保温材及び耐火被覆材には触れないこと。呼吸用保護具は粒子捕集効率95.0%以上とする。 イ 石綿を含有する保温材の保護材、囲い込み材及び封じ込め状況を点検する際には、周囲に石綿を飛散させることのないように慎重に確認するものとする。</p> <p>3 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）</p> <p>(1) 囲い込みをしていない煙突</p> <p>ア 確認方法 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）の確認は、次の(ア)又は(イ)にて行う。ただし、煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）全体の損傷、劣化状況の詳細な把握が必要であることから、過年度の調査も含めて少なくとも1回は(イ)に記載するファイバースコープ等を使用した煙道全体の調査を行うものとする。</p> <p>(ア) 煙突上部（排出口）及び煙突下部（灰出し口等）から、それぞれデジタルカメラ等による、損傷、劣化状況についての確認を行う。また、点検口については剥落物等の有無についても確認を行う。</p> <p>(イ) 煙突上部（排出口）からファイバースコープ等を使用した煙道全体の、損傷、劣化状況についての確認を行う。</p> <p>イ 点検に際する注意事項等 (ア) 点検は、ボイラー等の使用を停止した状態で行うなど、安全面を考慮した上で行うこと。</p>	<p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(イ) 下部点検口において剥落物等を確認する際には、状況に応じて労働者のばく露防止措置や環境中への飛散防止措置を取るなど、剥落物等が飛散しないように慎重に確認するよう、建築物石綿含有建材調査者等の専門家に指示するものとする。</p> <p>(ウ) 点検を行う際は、点検を行う者がばく露しないよう、呼吸用保護具及び保護衣（作業衣）を着用させることとし、また、定性分析による試料採取等を除き、<u>周辺環境</u>に飛散させないよう、断熱材には一切触れないよう指示すること。呼吸用保護具は粒子捕集効率 95.0%以上とする。</p> <p>(2) 囲い込み</p> <p>ア 確認方法 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）の囲い込み材について目視点検を行う。</p> <p>イ 点検に際しての注意事項等 囲い込み材を点検する際には、囲い込み材自体を損傷させ、周囲に石綿が飛散<u>す</u>ることのないように慎重に確認するものとする。また、高所作業となる場合には、安全帯の着用や適切な足場の設置など、安全面に留意すること。</p>	<p>(イ) 下部点検口において剥落物等を確認する際には、状況に応じて労働者のばく露防止措置や環境中への飛散防止措置を取るなど、剥落物等が飛散しないように慎重に確認するよう、建築物石綿含有建材調査者等の専門家に指示するものとする。</p> <p>(ウ) 点検を行う際は、点検を行う者がばく露しないよう、呼吸用保護具及び保護衣（作業衣）を着用させることとし、また、定性分析による試料採取等を除き、<u>周囲に石綿を飛散させること</u>のないよう、断熱材には一切触れないよう指示すること。呼吸用保護具は粒子捕集効率 95.0%以上とする。</p> <p>(2) 囲い込み<u>済みの煙突</u></p> <p>ア 確認方法 煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）の囲い込み材について目視点検を行う。</p> <p>イ 点検に際しての注意事項等 囲い込み材を点検する際には、囲い込み材自体を損傷させ、周囲に石綿を飛散<u>させる</u>ことのないように慎重に確認するものとする。また、高所作業となる場合には、安全帯の着用や適切な足場の設置など、安全面に留意すること。</p>	<p>・ 文言修正</p> <p>・ 文言修正</p> <p>・ 文言修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
(別添4 変更なし)	(別添4 変更なし)	

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 5</p> <p>石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気中濃度測定について</p> <p>1 測定方法について <u>空気</u>中のアスベスト濃度測定は、「アスベストモニタリングマニュアル」（第4.1版）（平成29年7月環境省水・大気環境局大気環境課）に記載された方法に準拠して行う。</p> <p>2 測定箇所 <u>測定</u>箇所は、次の(1)及び(2)の計2地点を原則とする。原則主風向の風下<u>に設置</u>することとするが、現場の状況に応じて<u>測定</u>箇所を選定することが適当と考えられる。また、屋上における対象煙突からの距離については、煙突の高さや設置場所等を考慮して設定する。 なお、詳細な状況把握のためなど、<u>測定箇所数について</u>増やすことを妨げるものではない。</p> <p>(1) 対象煙突における屋上の1地点 (2) 煙突直下付近の地上1地点</p> <p>3 試料採取時期 試料採取にあたっては、各施設における煙突の稼働状況や試料採取に際して周囲から影響を受ける可能性等、様々な要因に鑑みて個別に時期を定める。</p> <p>4 試料採取条件 (1) 測定回数 測定回数は原則1箇所につき1回とする。ただし、総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合は、環境対策課と協議の上、その後の測定について決定することとする。 また、ボイラーを停止する事態となった場合に行う測定に関しても環境対策課と協議の上決定することとする。</p> <p>(2) 吸引流量、採取時間及び採取量 フィルター（ろ紙径47mm、採じん面の径35mm）を用いて吸引速度10L/分で120分、計1200L採取する。</p> <p>(3) 採取高さ 原則測定箇所地面から1.5m以上2.0m以内の高さに設定する。ただし、障害物等の影響が考えられる場合等、配慮すべき事情がある場合はこの限りではない。</p> <p>(4) 天候 <u>試料採取時の天候が</u>、降雨や強風などの悪天候時には原則<u>測定</u>を実施しないこと。</p> <p>5 分析方法 位相差顕微鏡法による総繊維数濃度の測定を原則とするが、総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合は、環境対策課と協議の上、状況に応じて、電子顕微鏡法で石綿繊維数濃度を確認する。</p> <p>6 その他 大気<u>中</u>の濃度測定にあたっては、試料の採取から分析まですべて分析機関に行わせることが望ましい。</p>	<p style="text-align: right;">別添 5</p> <p>石綿含有断熱材を使用した煙突周辺における大気濃度測定について</p> <p>1 測定方法について <u>大気</u>濃度測定は、「アスベストモニタリングマニュアル」（第4.1版）（平成29年7月環境省水・大気環境局大気環境課）に記載された方法に準拠して行う。</p> <p>2 試料採取箇所 <u>試料採取</u>箇所は、次の(1)及び(2)の計2地点を原則とする。原則主風向の風下<u>で採取</u>することとするが、現場の状況に応じて<u>採取</u>箇所を選定することが適当と考えられる。また、屋上における対象煙突からの距離については、煙突の高さや設置場所等を考慮して設定する。 なお、詳細な状況把握のためなど、<u>採取箇所を</u>増やすことを妨げるものではない。</p> <p>(1) 対象煙突における屋上の1地点 (2) 煙突直下付近の地上1地点</p> <p>3 試料採取時期 試料採取にあたっては、各施設における煙突の稼働状況や試料採取に際して周囲から影響を受ける可能性等、様々な要因に鑑みて個別に時期を定める。</p> <p>4 試料採取条件 (1) 測定回数 測定回数は原則1箇所につき1回とする。ただし、総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合は、環境対策課と協議の上、その後の測定について決定することとする。 また、ボイラーを停止する事態となった場合に行う測定に関しても環境対策課と協議の上決定することとする。</p> <p>(2) 吸引流量、採取時間及び採取量 フィルター（ろ紙径47mm、採じん面の径35mm）を用いて吸引速度10L/分で120分、計1200L採取する。</p> <p>(3) 採取高さ 原則測定箇所地面から1.5m以上2.0m以内の高さに設定する。ただし、障害物等の影響が考えられる場合等、配慮すべき事情がある場合はこの限りではない。</p> <p>(4) 天候 降雨や強風などの悪天候時には原則<u>試料採取</u>を実施しないこと。</p> <p>5 分析方法 位相差顕微鏡法による総繊維数濃度の測定を原則とするが、総繊維数濃度が1本/Lを超えた場合は、環境対策課と協議の上、状況に応じて、電子顕微鏡法で石綿繊維数濃度を確認する。</p> <p>6 その他 大気濃度測定にあたっては、試料の採取から分析まですべて分析機関に行わせることが望ましい。</p>	<p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・文言修正</p>

旧（現行）

(別添6 各種調査表のうち、変更分のみ記載)

【施設分類】

別添6-5

施設分類	調査対象施設	吹付け石綿等、石綿含有保温材料、 石綿含有耐火被覆材及び屋根用 折板石綿断熱材	煙突用石綿断熱材 (煙突用石綿含有ライナー材を含む)	総数
1	単独住宅			
2	本庁舎			
3	支所・地方事務所			
4	職員公舎			
5	公会堂・市民会館			
6	診療所			
7	保健センター			
8	勤労青少年ホーム			
9	集会所(集会所として独立した建物のみ)			
10	保健所			
11	社会福祉事務所			
12	消防	消防本部		
13		消防署		
14		出張所等		
15		消防団詰所		
16		消防学校・訓練所		
17		寮・寄宿舎		
18	上水道			
19	下水道			
20	工業用水道			
21	軌道	営業所		
22		停留所等		
23	自動車運送			
24	地方鉄道	営業所		
25		駅等		
26	電気			
27	ガス			
28	市場			
29	と畜場			
30	国民宿舎保養所等			
31	上記以外の建物			
40	文部科学省所管施設 (例:学校、幼稚園、大学、図書館、 体育館等)			
50	厚生労働省所管施設 (例:病院、児童福祉施設、老人 福祉施設等)			
60	国土交通省所管施設 (例:市営住宅等)			
70	農林水産省所管施設 (例:卸売市場等)			
80	環境省所管施設 (例:廃棄物焼却処理施設等)			

新（改定素案）

(別添6 各種調査表のうち、変更分のみ記載)

【調査表《施設分類》】

別添6-3

施設分類	調査対象施設	所管施設の 総数 (台帳に登録のない施設を含む)	
1	単独住宅		
2	本庁舎		
3	支所・地方事務所		
4	職員公舎		
5	公会堂・市民会館		
6	診療所		
7	保健センター		
8	勤労青少年ホーム		
9	集会所(集会所として独立した建物のみ)		
10	保健所		
11	社会福祉事務所		
12	消防	消防本部	
13		消防署	
14		出張所等	
15		消防団詰所	
16		消防学校・訓練所	
17		寮・寄宿舎	
18	上水道		
19	下水道		
20	工業用水道		
21	軌道	営業所	
22		停留所等	
23	自動車運送		
24	地方鉄道	営業所	
25		駅等	
26	電気		
27	ガス		
28	市場		
29	と畜場		
30	国民宿舎保養所等		
31	上記以外の建物		
40	文部科学省所管施設 (例:学校、幼稚園、大学、図書館、 体育館等)		
50	厚生労働省所管施設 (例:病院、児童福祉施設、老人福祉施設等)		
60	国土交通省所管施設 (例:市営住宅等)		
70	農林水産省所管施設 (例:卸売市場等)		
80	環境省所管施設 (例:廃棄物焼却処理施設等)		

備考（改定事項等）

- ・調査表名の修正
- ・別添番号の修正
- ・一部調査項目の削除

旧（現行）

(別添6 各種調査表のうち、変更分のみ記載)

新（改定素案）

(別添6 各種調査表のうち、変更分のみ記載)

備考（改定事項等）

・新規作成

【記載例－調査表《施設分類》】

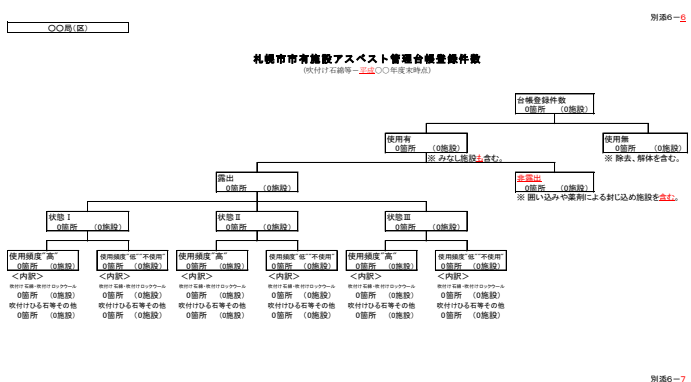
別添6-1表

施設分類	調査対象施設	所要施設の 数・数 (金額に換算のなし施設を含む)
1	単独住宅	
2	本庁舎	20
3	支所・地方事務所	
4	職員公会	
5	公会堂・市民会館	50
6	診療所	
7	保健センター	
8	青少年センター	
9	集会所(集会所として独立した建物のみ)	
10	保健所	
11	社会福祉事務所	10
12	消防本部	
13	消防署	
14	出陣所等	
15	消防訓練所	
16	消防学校・訓練所	
17	要・要預金	
18	上水道	
19	下水道	
20	工業用水道	
21	軌道	営業所
22		停留所等
23		自転車運送
24	地方鉄道	営業所
25		駅等
26	電気	
27	ガス	
28	市場	
29	と畜場	
30	国民宿舎保養所等	
31	上記以外の建物	30
40	文部科学省所管施設 (例: 学校、幼稚園、大学、図書館、体育館等)	
50	厚生労働省所管施設 (例: 病院、児童福祉施設、老人福祉施設等)	
60	国土交通省所管施設 (例: 市営住宅等)	
70	農林水産省所管施設 (例: 都営水産等)	
80	環境省所管施設 (例: 産業廃棄物処理施設等)	

金額に換算のある施設だけでなく、要領に基づく施設対象とならない施設(射撃施設等)も、書かれた所要施設の総数を、施設分類ごとに記載してください。

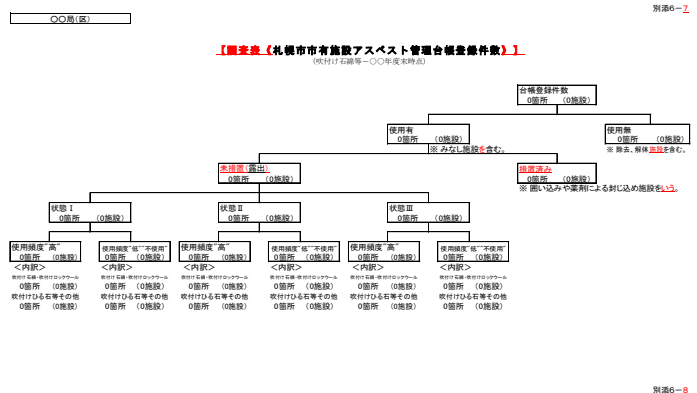
旧 (現行)

(別添6 各種調査表のうち、変更分のみ記載)



新 (改定素案)

(別添6 各種調査表のうち、変更分のみ記載)



備考 (改定事項等)

- ・別添番号の修正
- ・調査表名の修正
- ・措置分類の文言整理
- ・その他の文言修正

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 7-1</p> <p style="text-align: center;"><u>アスベストの使用状況及び除去等情報</u>記入上の注意</p> <p>《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>【施設分類】 <u>所管施設を1～31、40、50、60、70及び80の施設に分類する。</u> <u>（ただし、解体済みの施設を除く。）</u></p> <p>【調査表】</p> <p>(A) 列：記入時点で、アスベストの除去、封じ込めまたは囲い込みが既に行われている場合に入力する。</p> <p>施設が解体済みの場合：「解体済」（赤色塗りつぶし） アスベストを除去済みの場合：「除去済」（黄色塗りつぶし） アスベストを囲い込み済みの場合：「囲込済」（青色塗りつぶし） アスベストを封じ込め済みの場合：「封込済」（緑色塗りつぶし）</p> <p>なお、解体済、除去済など、現在アスベストが使用されていない場合には行全体を灰色で塗りつぶすこと。また、過去に0.1%を超える吹付け石綿等が使用されていた解体済及び除去済の施設については台帳から削除しないこと。</p> <p>(B) 列：図面等の調査を行ったがアスベスト使用の有無を判断できず、また定性分析は未実施であるが、アスベスト含有施設として維持管理する場合に「○」を入力する。</p> <p>(C) 列：図面等の調査及び定性分析を行った結果アスベスト(6物質)が使用されていない場合に「○」を入力する。アスベスト成形板等のレベル3建材のみ使用している施設については<u>は</u>、「○」を記載し、台帳上アスベスト非含有施設として取り扱う。</p> <p>(D) 列：【施設分類】シートで分類した「施設分類」を入力する。</p> <p>(E) 列：所管施設について、1から続き番号を入力する。</p> <p>(F) 列：同一建築物で複数の箇所を記載する場合には、1から続き番号を入力する。</p> <p>(G)～(I) 列：施設の基本情報を入力する。</p> <p>(J) 列：施設の主な用途を入力する。</p> <p>(K)～(M) 列：施設の基本情報を入力する。</p> <p>(N)～(Q) 列：<u>アスベスト使用箇所の</u>情報を入力する。アスベスト含有施設として維持管理する場合も入力する。ただし、「(任意) レベル3」の欄は、各局の情報整理支援のために設けているものである。レベル3建材は点検対象ではなく、当該欄を使用するかどうかは各局において判断できる。</p> <p>(R) 列：石綿含有建材の有無について目視・設計図書等による調査を行った年月を入力する。また、調査結果について「有り」「無し」「不明」を記載する。</p> <p>(S) 列：定性分析の概要及び結果を入力する。なお、複数回分析を行った場合は、全ての結果を入力する。</p>	<p style="text-align: right;">別添 7-1</p> <p style="text-align: center;"><u>調査表</u>記入上の注意</p> <p>《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>【調査表《吹付け石綿等、石綿含有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材》】</p> <p>(A) 列：記入時点で、アスベストの除去、封じ込めまたは囲い込みが既に行われている場合に入力する。</p> <p>・施設が解体済みの場合：「解体済」（赤色塗りつぶし） ・アスベストを除去済みの場合：「除去済」（黄色塗りつぶし） ・アスベストを囲い込み済みの場合：「囲込済」（青色塗りつぶし） ・アスベストを封じ込め済みの場合：「封込済」（緑色塗りつぶし）</p> <p>なお、解体済、除去済など、現在アスベストが使用されていない場合には行全体を灰色で塗りつぶすこと。また、過去に0.1%を超える吹付け石綿等が使用されていた解体済及び除去済の施設については台帳から削除しないこと。</p> <p>(B) 列：図面等の調査を行ったがアスベスト使用の有無を判断できず、また定性分析は未実施であるが、アスベスト含有施設と<u>みな</u>して維持管理する場合に「○」を入力する。</p> <p>(C) 列：図面等の調査及び定性分析を行った結果アスベスト(6物質)が使用されていない場合に「○」を入力する。アスベスト成形板等のレベル3建材のみ使用している施設についても<u>も</u>、「○」を記載し、台帳上アスベスト非含有施設として取り扱う。<u>いずれの場合もアスベストが使用されていないことから、行全体を灰色で塗りつぶすこと。</u></p> <p>(D) 列：【施設分類】シート(<u>別添6-5</u>)で分類した「施設分類」を入力する。<u>(ただし、解体済みの施設を除く。)</u></p> <p>(E) 列：所管施設について、<u>局・区ごとに</u>1から続き番号を入力する。<u>なお、局・区ごとの調査表に記載のある同一建築物においては、同一の番号とすること。</u></p> <p>(F) 列：同一建築物で複数の箇所を記載する場合には、1から続き番号を入力する。</p> <p>(G)～(I) 列：施設の基本情報を入力する。</p> <p>(J) 列：施設の主な用途を入力する。</p> <p>(K)～(M) 列：施設の基本情報を入力する。</p> <p>(N)～(Q) 列：<u>建材の使用情報</u>を入力する。<u>図面等の調査及び定性分析を行った結果アスベストが使用されていないことが判明している場合や</u>アスベスト含有施設と<u>みな</u>して維持管理する場合も入力する。ただし、「(任意) レベル3」の欄は、各局の情報整理支援のために設けているものである。レベル3建材は点検対象ではなく、当該欄を使用するかどうかは各局において判断できる。</p> <p>(R) 列：石綿含有建材の有無について目視・設計図書等による調査を行った年月を入力する。また、調査結果について「有り」「無し」「不明」を記載する。</p> <p>(S) 列：定性分析の概要及び結果を入力する。なお、複数回分析を行った場合は、全ての結果を入力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名の修正 ・記載不要箇所の削除 ・調査表名の修正 ・体裁の修正 ・文言修正 ・文言修正 ・文言追記 ・文言追記 ・文言修正、追記

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>(T) 列：定性分析未実施施設で、前年度中に定性分析を行わなかった施設について、今後の定性分析に関する調査・分析計画を入力する。</p> <p>(U) 列：施設の使用頻度について「高」「低」「不使用」のいずれかを入力する。なお、施設の使用頻度の定義については以下のとおりとする。</p> <p>高：事務室、教室、図書室、会議室、廊下、給湯室等、人の出入りが多く常時使用するところをいう。</p> <p>低：倉庫、機械室、電気室、変電室、非常階段等をいう。ただし、その場所に常駐者がいる場合は、「高」に含まれることとする。</p> <p>不使用：通常は誰も立入らない、又は使用していないところをいう。</p> <p>(V) 列：露出状況について入力する。囲い込み等を行い非露出の場合は非露出に「○」を入力する。</p> <p>(W) 列：除去済施設・非含有施設以外のすべての施設について、点検に関する情報を入力する。なお、点検方法は「目視」「濃度測定」を記載する。点検実施者は「施設職員」「委託業者」「専門家」を記載する。点検結果は前年度に点検した結果を入力することとし、記載は「<u>札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領</u>」の損傷、劣化の判断基準に従い損傷、劣化状態を確認した上で、次のうちいずれかを記入する。また、必要に応じて室内濃度測定を実施した場合はその結果について記入する。</p> <p>【吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材（未措置）】</p> <p>I（著しい損傷、劣化）：吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。「I」と記載する。</p> <p>II（部分的な損傷、劣化）：吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。「II」と記載する。</p> <p>III（通常）：吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。「III」と記載する。</p> <p>【石綿を含有する保温材及び耐火被覆材（未措置）】</p> <p>I（著しい損傷、劣化）：石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。「I」と記載する。</p> <p>II（部分的な損傷、劣化）：石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。「II」と記載する。</p> <p>III（通常）：石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。「III」と記載する。</p> <p>【囲い込み】</p> <p>I（損傷）：囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。「<u>囲-I</u>」と記載する。</p> <p>II（通常）：囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。「<u>囲-II</u>」と記載する。</p>	<p>(T) 列：定性分析未実施施設で、前年度中に定性分析を行わなかった施設について、今後の定性分析に関する調査・分析計画を入力する。</p> <p>(U) 列：施設の使用頻度について「高」「低」「不使用」のいずれかを入力する。なお、施設の使用頻度の定義については以下のとおりとする。</p> <p><u>・</u>高：事務室、教室、図書室、会議室、廊下、給湯室等、人の出入りが多く常時使用するところをいう。</p> <p><u>・</u>低：倉庫、機械室、電気室、変電室、非常階段等をいう。ただし、その場所に常駐者がいる場合は、「高」に含まれることとする。</p> <p><u>・</u>不使用：通常は誰も立入らない、又は使用していないところをいう。</p> <p>(V) 列：露出状況について入力する。囲い込み等を行い非露出の場合は非露出に「○」を入力する。</p> <p>(W) 列：除去済施設・非含有施設以外のすべての施設について、点検に関する情報を入力する。なお、点検方法は「目視」「濃度測定」を記載する。点検実施者は「施設職員」「委託業者」「専門家」を記載する。点検結果は前年度に点検した結果を入力することとし、記載は要領の損傷、劣化の判断基準に従い損傷、劣化状態を確認した上で、次のうちいずれかを記入する。また、必要に応じて室内<u>環境</u>濃度測定を実施した場合はその結果について記入する。</p> <p>【吹付け石綿等及び屋根用折板石綿断熱材（未措置（<u>露出</u>））】</p> <p>I（著しい損傷、劣化）：吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の全面にわたって表面が荒れ、剥離している。「I」と記載する。</p> <p>II（部分的な損傷、劣化）：吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が部分的に荒れ、一部剥離している。「II」と記載する。</p> <p>III（通常）：吹付け石綿等又は屋根用折板石綿断熱材の表面が安定しており、劣化も進んでいない。「III」と記載する。</p> <p>【石綿を含有する保温材及び耐火被覆材（未措置（<u>露出</u>））】</p> <p>I（著しい損傷、劣化）：石綿含有保温材の保護材が剥離し、露出した石綿含有保温材の繊維のくずれ等が見られる。又は石綿含有耐火被覆材の表面が全体的に荒れ、剥離している。「I」と記載する。</p> <p>II（部分的な損傷、劣化）：石綿含有保温材の保護材が部分的に剥離しているが石綿含有保温材は露出していない。又は石綿含有耐火被覆材の表面が部分的に荒れている。「II」と記載する。</p> <p>III（通常）：石綿含有保温材及び石綿含有耐火被覆材が安定しており、劣化も進んでいない。「III」と記載する。</p> <p>【囲い込み】</p> <p><u>囲-I</u>（損傷）：囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。「<u>囲-I</u>」と記載する。</p> <p><u>囲-II</u>（通常）：囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。「<u>囲-II</u>」と記載する。</p>	<p>・体裁の修正</p> <p>・文言修正</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・囲い込みの損傷、劣化状態記号の修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>【封じ込め】</p> <p>I（損傷）：封じ込め時よりも石綿含有建材が劣化し、損傷している。「封-I」と記載する。</p> <p>II（通常）：封じ込め時と同じ状態である。「封-II」と記載する。</p> <p>(X) 列：過去の改修について、該当があれば「○」を入力し、工事情報について記入する。解体工事に伴う除去を行った場合は、除去に「○」を入力し、解体・除去工事に係る情報を記入する。</p> <p>(Y) 列：前年度中に除去等の改修を行った場合には、該当する改修方法に「○」を入力し、工事情報について記入する。</p> <p>(Z) 列：まだ改修を行っていない施設について、今年度以降の改修計画を入力する。</p> <p>(AA) 列：施設の管理担当について記入する。</p> <p>(AB) 列：その他何か特記事項があれば記入する。</p> <p>※ アスベストとは以下の6種類 ①クリソタイル（白石綿） ②クロシドライト（青石綿）③アモサイト（茶石綿）④アンソフィライト ⑤トレモライト ⑥アクチノライト</p>	<p>【封じ込め】</p> <p>封-I（損傷）：封じ込め時よりも石綿含有建材が劣化し、損傷している。「封-I」と記載する。</p> <p>封-II（通常）：封じ込め時と同じ状態である。「封-II」と記載する。</p> <p>(X) 列：過去の改修について、該当があれば「○」を入力し、工事情報について記入する。解体工事に伴う除去を行った場合は、除去に「○」を入力し、解体・除去工事に係る情報を記入する。</p> <p>(Y) 列：前年度中に除去等の改修を行った場合には、該当する改修方法に「○」を入力し、工事情報について記入する。</p> <p>(Z) 列：まだ改修を行っていない施設について、今年度以降の改修計画を入力する。</p> <p>(AA) 列：施設の管理担当について記入する。</p> <p>(AB) 列：その他何か特記事項があれば記入する。</p> <p>※ アスベストとは以下の6種類 ①クリソタイル（白石綿） ②クロシドライト（青石綿）③アモサイト（茶石綿）④アンソフィライト ⑤トレモライト ⑥アクチノライト</p>	<p>・封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 7・2</p> <p style="text-align: center;">アスベストの使用状況及び除去等情報記入上の注意 《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>【施設分類】 <u>所管施設を1～31、40、50、60、70及び80の施設に分類する。</u> <u>（ただし、解体済みの施設を除く。）</u></p> <p>【調査表】 (A) 列：記入時点で、アスベストの除去、封じ込めまたは囲い込みが既に行われている場合に入力する。 施設が解体済みの場合：「解体済」（赤色塗りつぶし） アスベストを除去済みの場合：「除去済」（黄色塗りつぶし） アスベストを囲い込み済みの場合：「囲込済」（青色塗りつぶし） アスベストを封じ込め済みの場合：「封込済」（緑色塗りつぶし） なお、解体済、除去済など、現在アスベストが使用されていない場合には行全体を灰色で塗りつぶすこと。 (B) 列：図面等の調査及び定性分析を行った結果アスベスト(6物質)が使用されていない場合に「○」を入力する。 (C) 列：【施設分類】シートで分類した「施設分類」を入力する。 (D) 列：所管施設について、1から続き番号を入力する。 (E) 列：同一建築物で複数の箇所を記載する場合には、1から続き番号を入力する。 (F)～(H) 列：施設の基本情報を入力する。 (I) 列：施設の主な用途を入力する。 (J)～(L) 列：施設の基本情報を入力する。 (M)～(P) 列：<u>アスベスト</u>の使用情報を入力する。また、煙突の構造や、接続しているボイラー等機器の概要について入力する。 (Q) 列：石綿含有建材の有無について目視・設計図書等による調査を行った年月を入力する。また、調査結果について「有り」「無し」「不明」を記載する。 (R) 列：定性分析の概要及び結果を断熱材とライナー材に分けて入力する。なお、複数回分析を行った場合は、全ての結果を入力する。 (S) 列：施設の使用頻度について「高」「低」「不使用」のいずれかを入力する。なお、施設の使用頻度の定義については以下のとおりとする。 高：1年のうち、使用している期間が6か月以上である煙突をいう。 低：1年のうち、使用している期間が6か月未満である煙突をいう。 不使用：囲い込みをした煙突など、使用していない煙突をいう。 (T) 列：除去済施設・非含有施設以外のすべての施設について、点検に関する情報を入力する。なお、点検方法は「煙突上下調査」「内部カメラ調査」（囲い込みをした煙突の場合「目視」）を記載する。点検実施者は「専門家」「施設職員」「委託業者」を記載する。点検結果は前年度に点検した結果を入力すること</p>	<p style="text-align: right;">別添 7・2</p> <p style="text-align: center;">調査表記入上の注意 《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>【調査表《煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》】 (A) 列：記入時点で、アスベストの除去、封じ込めまたは囲い込みが既に行われている場合に入力する。 ・施設が解体済みの場合：「解体済」（赤色塗りつぶし） ・アスベストを除去済みの場合：「除去済」（黄色塗りつぶし） ・アスベストを囲い込み済みの場合：「囲込済」（青色塗りつぶし） ・アスベストを封じ込め済みの場合：「封込済」（緑色塗りつぶし） なお、解体済、除去済など、現在アスベストが使用されていない場合には行全体を灰色で塗りつぶすこと。 (B) 列：図面等の調査及び定性分析を行った結果アスベスト(6物質)が使用されていない場合に「○」を入力する。 (C) 列：【施設分類】シート（<u>別添6-5</u>）で分類した「施設分類」を入力する。<u>（ただし、解体済みの施設を除く。）</u> (D) 列：所管施設について、<u>局・区ごとに1</u>から続き番号を入力する。<u>なお、局・区ごとの調査表に記載のある同一建築物においては、同一の番号とすること。</u> (E) 列：同一建築物で複数の箇所を記載する場合には、1から続き番号を入力する。 (F)～(H) 列：施設の基本情報を入力する。 (I) 列：施設の主な用途を入力する。 (J)～(L) 列：施設の基本情報を入力する。 (M)～(P) 列：<u>建材</u>の使用情報を入力する。また、煙突の構造や、接続しているボイラー等機器の概要について入力する。 (Q) 列：石綿含有建材の有無について目視・設計図書等による調査を行った年月を入力する。また、調査結果について「有り」「無し」「不明」を記載する。 (R) 列：定性分析の概要及び結果を断熱材とライナー材に分けて入力する。なお、複数回分析を行った場合は、全ての結果を入力する。 (S) 列：施設の使用頻度について「高」「低」「不使用」のいずれかを入力する。なお、施設の使用頻度の定義については以下のとおりとする。 ・高：1年のうち、使用している期間が6か月以上である煙突をいう。 ・低：1年のうち、使用している期間が6か月未満である煙突をいう。 ・不使用：囲い込みをした煙突など、使用していない煙突をいう。 (T) 列：除去済施設・非含有施設以外のすべての施設について、点検に関する情報を入力する。なお、点検方法は「煙突上下調査」「内部カメラ調査」（囲い込みをした煙突の場合「目視」）を記載する。点検実施者は「専門家」「施設職員」「委託業者」を記載する。点検結果は前年度に点検した結果を入力すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名の修正 ・記載不要箇所の削除 ・調査表名の修正 ・体裁の修正 ・文言修正 ・文言修正 ・文言追記 ・文言修正 ・体裁の修正

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p>とし、記載は「<u>札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領</u>」の損傷、劣化の判断基準に従い損傷、劣化状態を確認した上で、次のうちいずれかを記入する。</p> <p>【未措置（<u>封じ込め・囲い込みを除く</u>）】</p> <p>I（著しい損傷）：断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。「I」と記載する。</p> <p>II（著しい劣化）：断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。「II」と記載する。</p> <p>III（劣化）：断熱材やライナー材の剥落は一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。「III」と記載する。</p> <p>IV（一部劣化）：断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。「IV」と記載する。</p> <p>V（通常）：断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。「V」と記載する。</p> <p>【<u>囲い込み</u>】</p> <p>I（損傷）：囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。「<u>囲-I</u>」と記載する。</p> <p>II（通常）：囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。「<u>囲-II</u>」と記載する。</p> <p>【<u>封じ込め</u>】</p> <p>I（損傷）：封じ込め時よりも断熱材が劣化し、損傷している。「<u>封-I</u>」と記載する。</p> <p>II（通常）：封じ込め時と同じ状態である。「<u>封-II</u>」と記載する。</p> <p>(U) 列：過去の改修について、該当があれば「○」を入力し、工事情報について記入する。解体工事に伴う除去を行った場合は、除去に「○」を入力し、解体・除去工事に係る情報を記入する。</p> <p>(V) 列：「<u>札幌市市有施設における石綿含有建材対策要領</u>」に従い、前年度に行った大気測定及び改修の措置について入力する。改修を行った場合は、工事情報についても記入する。</p> <p>(W) 列：まだ改修を行っていない施設について、今年度以降の改修計画を入力する。</p> <p>(X) 列：施設の管理担当について入力する。</p> <p>(Y) 列：その他何か特記事項があれば記入する。</p> <p>※ アスベストとは以下の6種類 ①クリソタイル（白石綿） ②クロシドライト（青石綿） ③アモサイト（茶石綿） ④アンソフィライト ⑤トレモライト ⑥アクチノライト</p>	<p>とし、記載は要領の損傷、劣化の判断基準に従い損傷、劣化状態を確認した上で、次のうちいずれかを記入する。</p> <p>【未措置（<u>露出</u>）】</p> <p>I（著しい損傷）：断熱材やライナー材が著しく損傷しており、ボイラーの稼働に支障をきたしている。「I」と記載する。</p> <p>II（著しい劣化）：断熱材やライナー材の剥落が一部認められ、劣化が著しい。「II」と記載する。</p> <p>III（劣化）：断熱材やライナー材の剥落は一部認められ、多少劣化している。又は、剥落をはっきりとは確認できないものの、全体的に劣化している。「III」と記載する。</p> <p>IV（一部劣化）：断熱材やライナー材の剥落が認められないものの、一部劣化している。「IV」と記載する。</p> <p>V（通常）：断熱材やライナー材の剥落がなく、劣化が認められない。「V」と記載する。</p> <p>【<u>囲い込み</u>】</p> <p><u>囲-I</u>（損傷）：囲い込み材が損傷し、石綿含有建材が露出している。「<u>囲-I</u>」と記載する。</p> <p><u>囲-II</u>（通常）：囲い込み材が安定しており、損傷は見られない。「<u>囲-II</u>」と記載する。</p> <p>【<u>封じ込め</u>】</p> <p><u>封-I</u>（損傷）：封じ込め時よりも断熱材が劣化し、損傷している。「<u>封-I</u>」と記載する。</p> <p><u>封-II</u>（通常）：封じ込め時と同じ状態である。「<u>封-II</u>」と記載する。</p> <p>(U) 列：過去の改修について、該当があれば「○」を入力し、工事情報について記入する。解体工事に伴う除去を行った場合は、除去に「○」を入力し、解体・除去工事に係る情報を記入する。</p> <p>(V) 列：要領に従い、前年度に行った大気濃度測定及び改修の措置について入力する。改修を行った場合は、工事情報についても記入する。</p> <p>(W) 列：まだ改修を行っていない施設について、今年度以降の改修計画を入力する。</p> <p>(X) 列：施設の管理担当について入力する。</p> <p>(Y) 列：その他何か特記事項があれば記入する。</p> <p>※ アスベストとは以下の6種類 ①クリソタイル（白石綿） ②クロシドライト（青石綿） ③アモサイト（茶石綿） ④アンソフィライト ⑤トレモライト ⑥アクチノライト</p>	<p>・文言修正</p> <p>・措置分類の文言整理</p> <p>・囲い込みの損傷、劣化状態記号の修正</p> <p>・封じ込めの損傷、劣化状態記号の修正</p> <p>・文言修正</p>

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 7-3</p> <p style="text-align: center;"><u>アスベストの使用状況及び除去等情報</u>記入上の注意 《施設分類》</p> <p>「総数」の欄には、所有するすべての施設数を記載する。</p> <p><u>「吹付け石綿等、石綿有保温材、石綿含有耐火被覆材及び屋根用折板石綿断熱材」及び「煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）」の欄には、現在石綿含有建材が使用されている（みなしを含む）施設数を記載する。</u></p>	<p style="text-align: right;">別添 7-3</p> <p style="text-align: center;"><u>調査表</u>記入上の注意 《施設分類》</p> <p>「<u>所管施設の総数（台帳に登録のない施設を含む）</u>」の欄には、<u>札幌市市有施設アスベスト管理台帳への登録施設であるかどうかにかかわらず、所管するすべての施設数を施設分類ごとに記載する。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名の修正 ・調査表様式の変更に伴う文言の追記・削除

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 7-4</p> <p style="text-align: center;"><u>アスベストの使用状況及び除去等情報</u>記入上の注意 《管理台帳登録件数-吹付け石綿等》</p> <p>「箇所」の欄には、「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を1箇所として計上する。 「施設」の欄には、「○」が<input type="checkbox"/>入力されている施設数を計上する。<u>なお</u>、同一施設で複数の使用箇所（行）がある場合には、1施設として計上する。</p> <p>台帳登録件数：別添6-1「Q 建材の種類」において、吹付け材（石綿、ロックウール、その他）に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上とする。また、別添6-7（石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材）に計上できない行についても、併せて計上する。</p> <p>使用無：台帳登録件数のうち、定性分析でアスベストが含有されていないと判明した行を、施設の解体やアスベストの除去が既に行われている行を計上する。</p> <p>使用有：台帳登録件数のうち、アスベストが使用されている行を計上する（囲い込み、封じ込め、みなしを含む）。</p> <p>非露出：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされている状態にあり、別添6-1「V 露出状況」において非露出に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>露出：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされておらず、別添6-1「V 露出状況」において露出に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>状態Ⅰ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅠ（著しい損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>状態Ⅱ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅡ（部分的な損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>状態Ⅲ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅢ（通常）が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。 なお、年度中に複数回点検し「状態Ⅰ」「状態Ⅱ」「状態Ⅲ」が混在する場合は、直近の点検結果を計上する。</p> <p>使用頻度”高”：別添6-1「U 使用頻度」において「高」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>使用頻度”低””不使用”：別添6-1「U 使用頻度」において「低」「不使用」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>吹付け石綿・吹付けロックウール：別添6-1「Q 建材の種類」において「石綿」「ロックウール」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>吹付けひる石等その他：別添6-1「Q 建材の種類」において「その他」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p>	<p style="text-align: right;">別添 7-4</p> <p style="text-align: center;"><u>調査表</u>記入上の注意 《管理台帳登録件数-吹付け石綿等》</p> <p>「箇所」の欄には、情報が記載されている行を1箇所として計上する。 「施設」の欄には、施設番号の数を計上する（同一施設において、複数の箇所（行）に同一の施設番号が付番されているものは、1施設として計上する。）。</p> <p>台帳登録件数：別添6-1「Q 建材の種類」において、吹付け材（石綿、ロックウール、その他、レベル3）に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上とする。また、別添6-7（石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材、レベル3）に計上できない行についても、併せて計上する。</p> <p>使用無：台帳登録件数のうち、定性分析でアスベストが含有されていないと判明した箇所（行）、レベル3建材が使用されている箇所（行）、施設の解体やアスベストの除去が既に行われている行を計上する。</p> <p>使用有：台帳登録件数のうち、アスベストが使用されている箇所（行）を計上する（囲い込み、封じ込め、みなしを含む）。</p> <p>措置済み：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされている状態にあり、別添6-1「A 現在の状況」の除去・封込・囲込欄において「囲込済」又は「封込済」のいずれかが<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>未措置（露出）：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされておらず、別添6-1「A 現在の状況」の除去・封込・囲込欄において「囲込済」又は「封込済」のいずれも<input type="checkbox"/>入力されていない箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅰ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅠ（著しい損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅱ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅡ（部分的な損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅲ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅢ（通常）が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。 なお、年度中に複数回点検し「状態Ⅰ」「状態Ⅱ」「状態Ⅲ」が混在する場合は、直近の点検結果を計上する。</p> <p>使用頻度”高”：別添6-1「U 使用頻度」において「高」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>使用頻度”低””不使用”：別添6-1「U 使用頻度」において「低」「不使用」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>吹付け石綿・吹付けロックウール：別添6-1「Q 建材の種類」において「石綿」「ロックウール」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>吹付けひる石等その他：別添6-1「Q 建材の種類」において「その他」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名の修正 ・文言修正 ・文言追記 ・文言追記 ・文言追記 ・措置分類の文言整理 ・文言修正

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 7-5</p> <p style="text-align: center;"><u>アスベストの使用状況及び除去等情報</u>記入上の注意</p> <p>《管理台帳登録件数－石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>「箇所」の欄には、「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を1箇所として計上する。</p> <p>「施設」の欄には、「○」が<input type="checkbox"/>入力されている施設数を計上する。<u>なお</u>、同一施設で複数の使用箇所（行）がある場合には、1施設として計上する。</p> <p>台帳登録件数：別添6-1「Q 建材の種類」において、保温材・耐火被覆材・屋根用折板断熱材に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上とする。</p> <p>使用無：台帳登録件数のうち、定性分析でアスベストが含有されていないと判明した行や、施設の解体やアスベストの除去が既に行われている行を計上する。</p> <p>使用有：台帳登録件数のうち、アスベストが使用されている行を計上する（囲い込み、封じ込め、みなしを含む）。</p> <p>非露出：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされている状態にあり、別添6-1「V 露出状況」において非露出に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>露出：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされておらず、別添6-1「V 露出状況」において露出に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>状態Ⅰ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅠ（著しい損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>状態Ⅱ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅡ（部分的な損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>状態Ⅲ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅢ（通常）が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、年度中に複数回点検し「状態Ⅰ」「状態Ⅱ」「状態Ⅲ」が混在する場合は、直近の点検結果を計上する。</p> <p>使用頻度”高”：別添6-1「U 使用頻度」において「高」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>使用頻度”低””不使用”：別添6-1「U 使用頻度」において「低」「不使用」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>石綿含有保温材：別添6-1「Q 建材の種類」において「保温材」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>石綿含有耐火被覆材：別添6-1「Q 建材の種類」において「耐火被覆材」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p> <p>屋根用折板石綿断熱材：別添6-1「Q 建材の種類」において「屋根用折板断熱材」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上する。</p>	<p style="text-align: right;">別添 7-5</p> <p style="text-align: center;"><u>調査表</u>記入上の注意</p> <p>《管理台帳登録件数－石綿含有保温材・石綿含有耐火被覆材・屋根用折板石綿断熱材》</p> <p>「箇所」の欄には、情報が記載されている行を1箇所として計上する。</p> <p>「施設」の欄には、施設番号の数を計上する（同一施設において、複数の箇所（行）に同一の施設番号が付番されているものは、1施設として計上する）。</p> <p>台帳登録件数：別添6-1「Q 建材の種類」において、保温材・耐火被覆材・屋根用折板断熱材に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を計上とする。</p> <p>使用無：台帳登録件数のうち、定性分析でアスベストが含有されていないと判明した箇所（行）や、施設の解体やアスベストの除去が既に行われている箇所（行）を計上する（注：レベル3建材が使用されている箇所（行）は計上しない）。</p> <p>使用有：台帳登録件数のうち、アスベストが使用されている箇所（行）を計上する（囲い込み、封じ込め、みなしを含む）。</p> <p>措置済み：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされている状態にあり、別添6-1「A 現在の状況」の除去・封込・囲込欄において「囲込済」又は「封込済」のいずれかが<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>未措置（露出）：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込みや薬剤による封じ込めがされておらず、別添6-1「A 現在の状況」の除去・封込・囲込欄において「囲込済」又は「封込済」のいずれも<input type="checkbox"/>入力されていない箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅰ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅠ（著しい損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅱ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅡ（部分的な損傷、劣化）が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅲ：露出の件数のうち、別添6-1「W 点検結果」においてⅢ（通常）が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、年度中に複数回点検し「状態Ⅰ」「状態Ⅱ」「状態Ⅲ」が混在する場合は、直近の点検結果を計上する。</p> <p>使用頻度”高”：別添6-1「U 使用頻度」において「高」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>使用頻度”低””不使用”：別添6-1「U 使用頻度」において「低」「不使用」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>石綿含有保温材：別添6-1「Q 建材の種類」において「保温材」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>石綿含有耐火被覆材：別添6-1「Q 建材の種類」において「耐火被覆材」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p> <p>屋根用折板石綿断熱材：別添6-1「Q 建材の種類」において「屋根用折板断熱材」に「○」が<input type="checkbox"/>入力されている箇所（行）を計上する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名の修正 ・文言修正 ・文言追記 ・文言修正 ・措置分類の文言整理 ・文言修正

旧（現行）	新（改定素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 7-6</p> <p style="text-align: center;"><u>アスベストの使用状況及び除去等情報</u>記入上の注意 《管理台帳登録件数－煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>「箇所」の欄には、「○」が<input type="checkbox"/>入力されている行を1箇所として計上する。 「施設」の欄には、「○」が<input type="checkbox"/>入力されている施設数を計上する。<u>なお</u>、同一施設で複数の使用箇所（行）がある場合には、1施設として計上する。</p> <p>台帳登録件数：別添6-2に記載されている行を計上とする。 使用無：台帳登録件数のうち、定性分析でアスベストが含有されていないと判明した行や、施設の解体やアスベストの除去が既に行われている行を計上する。</p> <p>使用有：台帳登録件数のうち、アスベストが使用されている行を計上する（囲い込み、封じ込め、みなしを含む）。 <u>非露出</u>：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込み又は封じ込めを<u>行った</u>行を計上する。</p> <p>露出：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込み又は封じ込めを<u>行っていない</u>行を計上する。</p> <p>状態Ⅰ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅠ（著しい損傷）が入力されている行を計上する。 状態Ⅱ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅡ（著しい劣化）が入力されている行を計上する。 状態Ⅲ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅢ（劣化）が入力されている行を計上する。 状態Ⅳ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅣ（一部劣化）が入力されている行を計上する。 状態Ⅴ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅤ（通常）が入力されている行を計上する。 なお、年度中に複数回点検し「状態Ⅰ」「状態Ⅱ」「状態Ⅲ」「状態Ⅳ」「状態Ⅴ」が混在する場合は、直近の点検結果を計上する。 使用頻度”高”：別添6-2「S 使用頻度」において「高」が入力されている行を計上する。 使用頻度”低””不使用”：別添6-2「S 使用頻度」において「低」「不使用」が入力されている行を計上する。</p>	<p style="text-align: right;">別添 7-6</p> <p style="text-align: center;"><u>調査表</u>記入上の注意 《管理台帳登録件数－煙突用石綿断熱材（煙突用石綿含有ライナー材を含む）》</p> <p>「箇所」の欄には、<u>情報</u>が記載されている行を1箇所として計上する。 「施設」の欄には、施設番号の数を計上する（同一施設において、複数の箇所（行）に同一の施設番号が付番されているものは、1施設として計上する。</p> <p>台帳登録件数：別添6-2に記載されている行を計上とする。 使用無：台帳登録件数のうち、定性分析でアスベストが含有されていないと判明した箇所（行）や、施設の解体やアスベストの除去が既に行われている箇所（行）を計上する。 使用有：台帳登録件数のうち、アスベストが使用されている箇所（行）を計上する（囲い込み、封じ込め、みなしを含む）。 <u>措置済み</u>：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込み又は封じ込めをがされている状態にあり、別添6-2「A 現在の状況」の除去・封込・囲込欄において「囲込済」又は「封込済」のいずれかが入力されている箇所（行）を計上する。 <u>未措置（露出）</u>：アスベスト使用有の件数のうち、囲い込み又は封じ込めがされておらず、別添6-2「A 現在の状況」の除去・封込・囲込欄において「囲込済」又は「封込済」のいずれも入力されていない箇所（行）を計上する。</p> <p>状態Ⅰ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅠ（著しい損傷）が入力されている箇所（行）を計上する。 状態Ⅱ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅡ（著しい劣化）が入力されている箇所（行）を計上する。 状態Ⅲ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅢ（劣化）が入力されている箇所（行）を計上する。 状態Ⅳ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅣ（一部劣化）が入力されている箇所（行）を計上する。 状態Ⅴ：露出の件数のうち、別添6-2「T 点検結果」においてⅤ（通常）が入力されている箇所（行）を計上する。 なお、年度中に複数回点検し「状態Ⅰ」「状態Ⅱ」「状態Ⅲ」「状態Ⅳ」「状態Ⅴ」が混在する場合は、直近の点検結果を計上する。 使用頻度”高”：別添6-2「S 使用頻度」において「高」が入力されている箇所（行）を計上する。 使用頻度”低””不使用”：別添6-2「S 使用頻度」において「低」「不使用」が入力されている箇所（行）を計上する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名の修正 ・文言修正 ・文言追記 ・文言修正 ・措置分類の文言整理 ・文言修正

旧（現行）	新（改正素案）	備考（改定事項等）
<p style="text-align: right;">別添 8</p> <p><参考資料> (参考 1～5 に変更なし)</p> <p>【参考 6】十分な経験及び必要な能力を有する者がいる分析機関</p> <p>労働安全衛生法第 28 条第 1 項の規定に基づく「建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針」において、「石綿含有の分析は、十分な経験及び必要な能力を有する者が行うこと。」とされているため、これに準じて 1、2 又は 3 の者がいる分析機関に依頼することが望ましいとした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公益社団法人日本作業環境測定協会が実施する「石綿分析技術の評価事業（石綿分析に係るクロスチェック事業）」により認定される A ランク又は B ランクの認定分析技術者 http://www.jawe.or.jp/seidokanri/ishiwatabunseki.htm 2 一般社団法人日本環境測定分析協会が実施する「アスベスト偏光顕微鏡実技研修修了者」 https://www.jemca.or.jp/seminar/asbestos_tec/asbesto_skill_pass/ 3 一般社団法人日本環境測定分析協会が実施する「アスベスト偏光顕微鏡インストラクター」である者 https://www.jemca.or.jp/seminar/jemca_instructor/ <p>なお、1 の技術者がいる本市の登録業者については、平成 30 年度～平成 32 年度登録から「契約基本システム」にて確認することが可能となっている。</p> <p>(参考 7 に変更なし)</p>	<p style="text-align: right;">別添 8</p> <p><参考資料> (参考 1～5 に変更なし)</p> <p>【参考 6】十分な経験及び必要な能力を有する者がいる分析機関</p> <p>労働安全衛生法第 28 条第 1 項の規定に基づく「建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針」において、「石綿含有の分析は、十分な経験及び必要な能力を有する者が行うこと。」とされているため、これに準じて 1、2 又は 3 の者がいる分析機関に依頼することが望ましいとした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公益社団法人日本作業環境測定協会が実施する「石綿分析技術の評価事業（石綿分析に係るクロスチェック事業）」により認定される A ランク又は B ランクの認定分析技術者 http://www.jawe.or.jp/ishiwata/ishiwatabunseki.html 2 一般社団法人日本環境測定分析協会が実施する「アスベスト偏光顕微鏡実技研修修了者」 https://www.jemca.or.jp/seminar/asbestos_tec/asbesto_skill_pass/ 3 一般社団法人日本環境測定分析協会が実施する「アスベスト偏光顕微鏡インストラクター」である者 https://www.jemca.or.jp/seminar/jemca_instructor/ <p>なお、1 の技術者がいる本市の登録業者については、平成 30 年度～平成 32 年度登録から「契約基本システム」にて確認することが可能となっている。</p> <p>(参考 7 に変更なし)</p>	<p>・リンク先 URL の変更に伴う修正</p>

旧 (現行)	新 (改正素案)	備考 (改定事項等)
<p>【参考 8】室内環境濃度の測定</p> <p>「建築物内に使用されているアスベストに係る当面の対策について (通知)」(昭和 63 年 2 月 1 日環大規第 26 号、衛企第 9 号) において、「建築物内のアスベスト濃度測定については、環境大気のアスベストモニタリングマニュアルを参考にすること。」とされている。アスベストモニタリングマニュアルの最新版については、下記サイトで確認することができる。</p> <p>http://www.env.go.jp/air/asbestos/monitoring_manu.html</p> <p>また、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」(http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter_ctrl/manual_td_1403/index.html) (2014 年 6 月、環境省水・大気環境局大気環境課) においては、室内環境等低濃度レベルにおける測定を対象とした、「既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説」(平成 18 年 9 月、(一財) 日本建築センター) の測定方法に対する記載があり、その主な条件は次のとおりとなっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 測定位置 建築物の高さ 50～150cm の位置 2 フィルター直径 φ25mm 又は φ47mm (1 本/L を超えた際、電子顕微鏡での再測定を行う可能性があるため、φ47mm での測定が望ましい。) 3 吸引流量・時間 5 L/分×120 分 4 顕微鏡 位相差顕微鏡 (総繊維数濃度) 5 基準 周辺一般環境大気との比較 (総繊維数濃度の測定結果が 1 本/L を超えた場合は、直ちに環境対策課へ報告すること。) <p><u>なお、建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアルについては、下記サイトで確認することができる。</u></p> <p>http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter_ctrl/manual_td_1403/index.html</p> <p>(参考 9～11 に変更なし)</p>	<p>【参考 8】室内環境濃度の測定</p> <p>「建築物内に使用されているアスベストに係る当面の対策について (通知)」(昭和 63 年 2 月 1 日環大規第 26 号、衛企第 9 号) において、「建築物内のアスベスト濃度測定については、環境大気のアスベストモニタリングマニュアルを参考にすること。」とされている。アスベストモニタリングマニュアルの最新版については、下記サイトで確認することができる。</p> <p>http://www.env.go.jp/air/asbestos/monitoring_manu.html</p> <p>また、「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」(2014 年 6 月、環境省水・大気環境局大気環境課) においては、室内環境等低濃度レベルにおける測定を対象とした、「既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説」(平成 18 年 9 月、(一財) 日本建築センター) の測定方法に対する記載があり、その主な条件は次のとおりとなっている。<u>建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアルについては、下記サイトで確認することができる。</u></p> <p>http://www.env.go.jp/air/asbestos/litter_ctrl/manual_td_1403/index.html</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 測定位置 建築物の高さ 50～150cm の位置 2 フィルター直径 φ25mm 又は φ47mm (1 本/L を超えた際、電子顕微鏡での再測定を行う可能性があるため、φ47mm での測定が望ましい。) 3 吸引流量・時間 5 L/分×120 分 4 顕微鏡 位相差顕微鏡 (総繊維数濃度) 5 基準 周辺一般環境大気との比較 (総繊維数濃度の測定結果が 1 本/L を超えた場合は、直ちに環境対策課へ報告すること。) <p>(参考 9～11 に変更なし)</p>	<p>・記載位置の修正</p> <p>・記載位置の修正</p> <p>・記載位置の修正</p>